

市原市島原遺跡（第2次）

2024

エコサイト株式会社
市原市教育委員会

しまばら
市原市島原遺跡（第2次）

2024

エコサイト株式会社
市原市教育委員会

例言・凡例

- 1 本報告書は、千葉縣市原市椎津字島原 1326 番地 1 に所在する島原遺跡（第 2 次）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、事務所建設に伴い、エコサイト株式会社の委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもと、市原市埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 発掘調査は開発範囲 842.975 m²のうち、194.48 m²を対象として実施した本調査である。これは令和 4 年度に市原市の国庫補助事業として埋蔵文化財調査センターが実施した 84.2975 m²の確認調査の結果を受けたものである。
- 4 発掘調査・整理作業は以下のとおりに行った。

確認調査 令和 4 年 9 月 1 日～令和 4 年 9 月 16 日 担当 鈴木宏和・川上知哉
本調査 令和 4 年 11 月 2 日～令和 4 年 11 月 29 日 担当 鈴木宏和
整理作業 令和 5 年 6 月 1 日～令和 5 年 11 月 30 日 担当 川上知哉
- 5 本書の執筆は川上知哉が行った。
- 6 島原遺跡（第 2 次）の調査コードはセ 600（確認調査）・セ 603（本調査）である。
- 7 出土遺物と記録類は、市原市教育委員会教育振興部文化財課埋蔵文化財調査センター（千葉縣市原市能満 1489 番地）で収蔵・保管している。
- 8 平面図及び土層断面の「K」は攪乱を示している。
- 9 本書で示す北は座標北である。また、水準は海拔高を示す。
- 10 土器の器面、土層の表面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社による。
- 11 本文中の土層注記の記載方法については下記の対応表による。

内容物の表記

ローム粒子	→	ロ粒
ロームブロック	→	ロブ
焼土粒子	→	焼粒
焼土ブロック	→	焼ブ
炭化物粒子	→	炭粒
炭化物ブロック	→	炭ブ
白色粘土粒子	→	白粒
白色粘土ブロック	→	白ブ

内容物の大きさ

粒	=	5mm 未満
ブ	=	5mm 以上

* 数字による記載は省略

しまり表記

しまり非常に強い	→	締非強
しまり強い	→	締強
しまりやや強い	→	締中
しまり弱い	→	締弱

粘性表記

粘性あり	→	粘有
粘性なし	→	粘無

- 12 挿図におけるスクリーントーン・遺物表示の用例は下記による。

凡 例

遺構（平面図及び断面図）		遺物	
 焼土	・ 遺物点（土器） ■ 遺物点（石製品）	 須恵器断面	 赤彩
 粘土・カマド袖	・ 遺物点（土製品） ★ 遺物点（鉄製品）	 鉄製品断面	 黒色処理
	☆ 遺物点（鉄製品非掲載）	 石製品断面	

- 13 第 1 図・第 2 図は国土地理院発行の数値地図 25000（地図画像）を用いた。
- 14 本文土層断面図に示されている遺物の掲載番号については○数字で示した。
- 15 遺物写真図版の縮尺は、基本的に実測図に準じる。

本文目次

1	調査に至る経緯	1
2	遺跡周辺の環境	1
3	調査の成果	1
	(1) 調査概要	1
	(2) 遺構と遺物	5
	1 トレンチ	5
	2 トレンチ	6
	3 トレンチ	7
	4 トレンチ	10
4	まとめ	17

挿図目次

第 1 図	島原遺跡及び周辺遺跡位置図	2
第 2 図	島原遺跡周辺地形図	2
第 3 図	島原遺跡(第 2 次)全体図	3
第 4 図	島原遺跡(第 1 次)・(第 2 次)調査範囲	4
第 5 図	1 トレンチ、SD01、SK01・02、Pit01・02 遺構図・断面図	6
第 6 図	2 トレンチ、SI01・05、SK03 遺構図・断面図	8
第 7 図	2 トレンチ、SI01 カマド、SK03 遺構図・断面図(1)	9
第 8 図	2 トレンチ、SI01 カマド、SK03 断面図(2)	10
第 9 図	3 トレンチ、SI04、4 トレンチ、SI02、Pit06・13 遺構図・断面図	11
第 10 図	4 トレンチ、SI02 カマド 遺構図・断面図(1)	12
第 11 図	4 トレンチ、SI02 カマド 遺構図・断面図(2)	13
第 12 図	4 トレンチ、SI03 遺構図・断面図	15
第 13 図	4 トレンチ、SB01、Pit03～05・07～12・14 遺構図・断面図(1)	16
第 14 図	4 トレンチ、Pit03～05・08～11 断面図(2)	17
第 15 図	SI01・05、SD01 遺物実測図	18
第 16 図	SI02、SK03 遺物実測図	19
第 17 図	SI03、SB01、Pit05・06、4 トレンチ 遺物実測図	20

表目次

第 1～4 表	出土遺物観察表	21・22
---------	---------	-------

図版目次

図版 1	島原遺跡周辺航空写真
図版 2	遺構 発掘前状況 1 トレンチ SD01 SK01 SK02 Pit01
図版 3	遺構 1 トレンチ Pit02 2 トレンチ SI01
図版 4	遺構 2 トレンチ SI01 SI05 SK03 3 トレンチ SI04
図版 5	遺構 4 トレンチ SI02
図版 6	遺構 SI02 SI03 SB01 Pit07・14
図版 7	遺構 4 トレンチ SB01 Pit04・05・10・12
図版 8	遺構 4 トレンチ 遺物 SI03
図版 9	遺物 SD01 SI01 SI05
図版 10	遺物 4 トレンチ SK03 SI02 SI03 SB01 Pit05・06

1 調査に至る経緯

今回の発掘調査は千葉県市原市椎津字島原1326番地1における事務所建設に伴い実施したものである。エコサイト株式会社は事務所建設に先立ち、令和4年6月15日付けで文化財保護法第93条に基づく届出を提出し、これを受けた市教委は試掘を実施した。この結果、遺構・遺物を確認し、令和4年8月16日付けで、県教委へ進達した（市教文第5402号）。届出と試掘結果を受けた県教委は令和4年8月22日付けで事業地内における発掘調査を指示する文書を事業者へ通知した（教文第111号の879）。事業者の計画実施の方針に変更はなかったため、事業範囲のうち842.975㎡を対象に、市教委が国庫補助事業（令和4年度市内遺跡発掘調査事業）として確認調査を行った（令和4年9月1日～9月16日）。確認調査結果に基づき、事業者と市教委が協議を重ねた結果、平成23年度確認調査範囲の一部を含む事業区域内における保存困難な埋蔵文化財について、事業者負担による記録保存の措置をとることとなり、194.48㎡を対象に本調査を実施することとなった。

2 遺跡周辺の環境（第1・2図）

島原遺跡は養老川下流左岸、椎津の海岸線より南東に約0.8km入った洪積台地上南端部に位置する。今回調査区は標高40m前後の舌状台地最奥部に位置し、東西方向から谷が入り込む台地上の最狭地点にあたる。都市計画道路八幡椎津線を挟んで約300m北西には古墳時代後期及び平安時代の竪穴建物跡群が確認された椎津向原遺跡（牧野2009）、約400m北東には平安時代及び中世の遺構群が確認された椎津尾崎遺跡がある（櫻井1997、高橋2012）。また、北東約500mと800mの地点には古墳時代前期・後期の竪穴建物跡群、円墳周溝等が確認された五霊台遺跡（高橋1998）、弥生時代から古墳時代の竪穴建物跡群が密集して検出された茶ノ木遺跡が位置している（木對1992）。

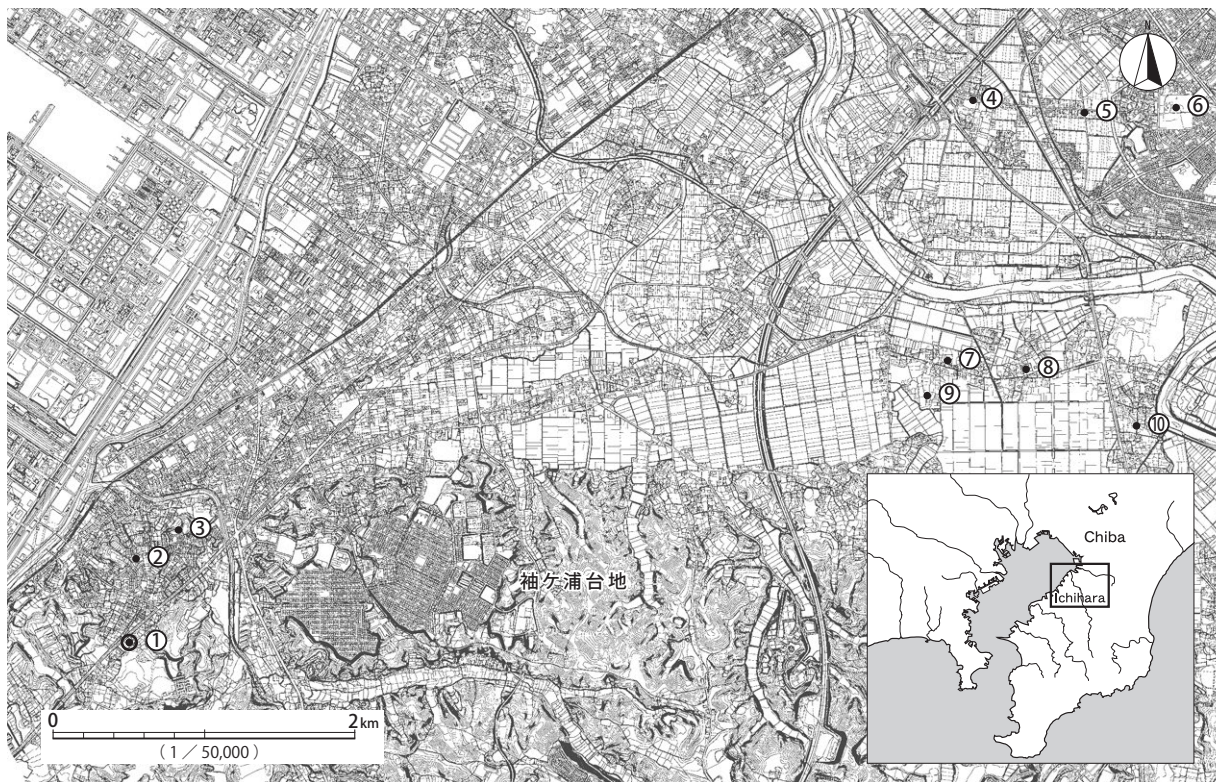
今回の調査区は平成23年度に実施した第1次調査区（確認調査）に隣接している（第4図）。1次調査では対象面積70㎡と小規模であったものの、古墳時代後半の竪穴建物跡1棟と8世紀後半を主体とする竪穴建物跡3棟が検出されている（木對2012）。また、令和4年度の確認調査では古墳時代竪穴建物跡2棟と奈良時代竪穴建物跡1棟が確認されている（鈴木2023）。

3 調査の成果

（1）調査概要（第3図）

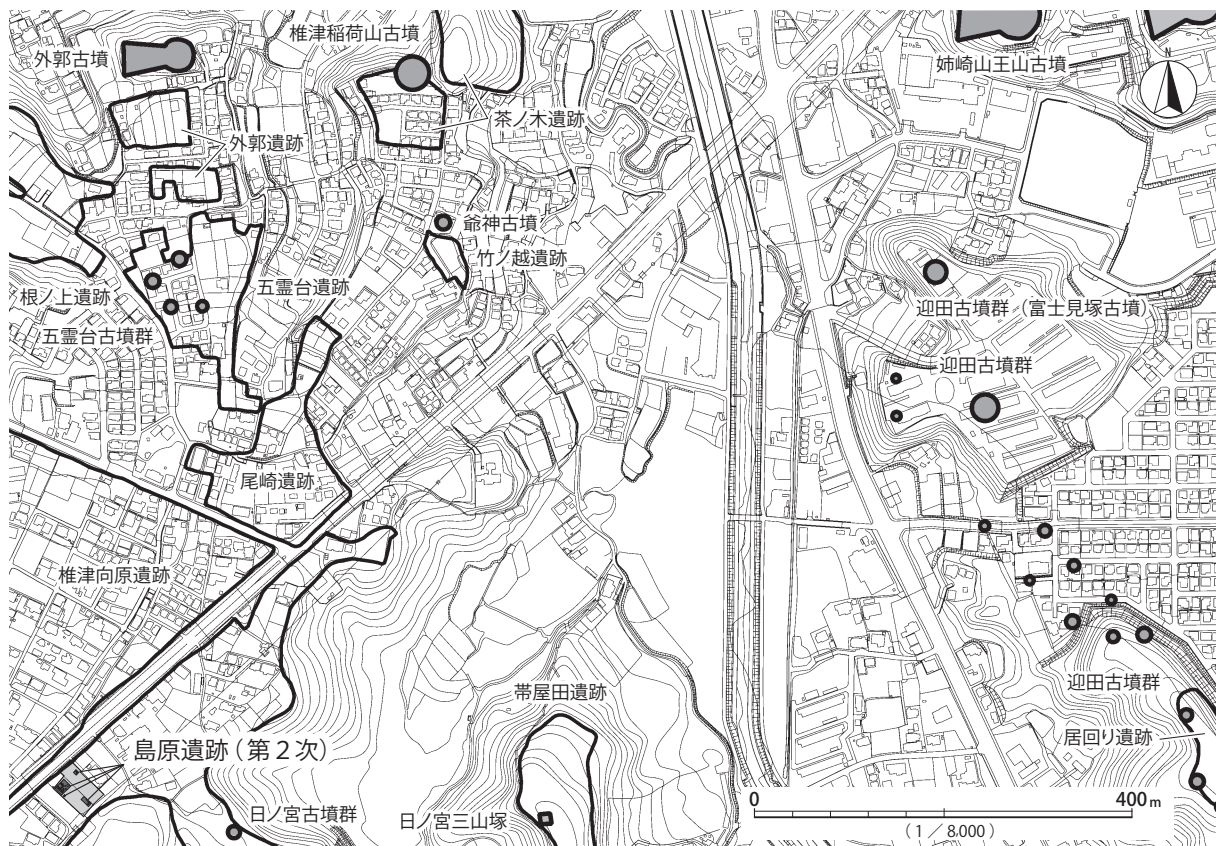
今回の調査は、確認調査で明らかになった遺構分布範囲のうち、工事箇所と重なる地点194.48㎡を対象とした。事業範囲は、調査以前には畑地として利用されていた。測量基準点は座標値（世界測地系）を使用し、方眼杭を打設した。表土は重機により除去し、遺構プランを確認した。現地表から遺構検出面までの深度は調査区全体で約0.7mであった。遺構の保存状況は比較的良好だった。

調査方法 竪穴建物跡等の覆土は、サブトレンチを設定し層序を確認した後、層位ごとに掘り下げを行った。カマドは袖部を露出させた後に、焚き口と煙道の軸に沿って直角・平行方向に土層断面図を作成した。出土遺物については、小破片は層位毎、または遺構毎に収集した。主な遺物や遺構プランについては遺構実測支援システム（電子平板「遺構くんcubic」）を用いて、形状や標高・座標を図化記録した。写真撮影はデジタルカメラ（PENTAX K-1 Mark II）で行った。調査は周辺地区の成果を踏まえて、古墳時代から奈良・平安時代に属する竪穴建物跡の検出を想定して行った。

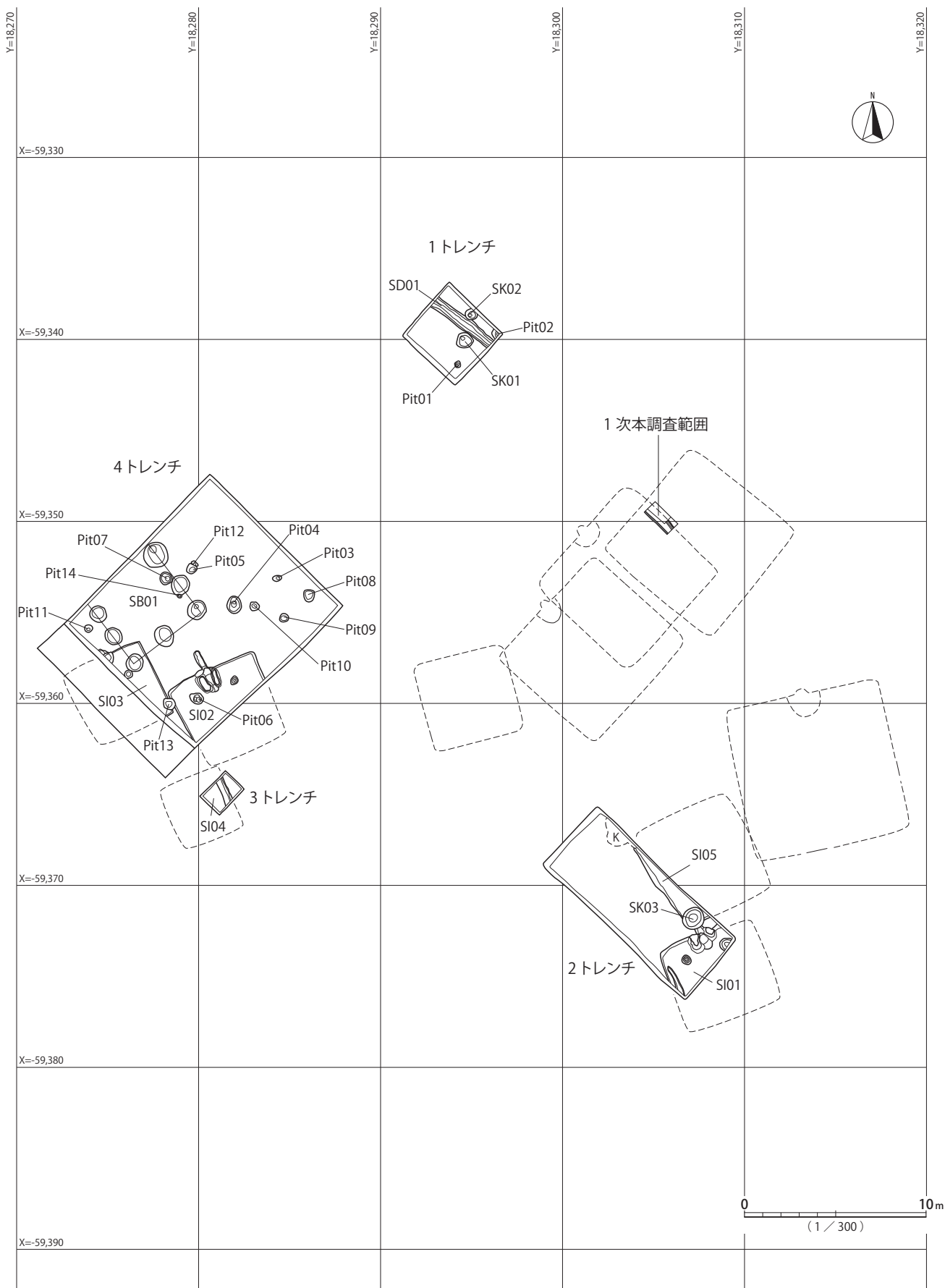


- ① 島原遺跡 ② 椎津城跡 ③ 茶ノ木遺跡 ④ 村上遺跡群(上総国府推定地Ⅱ) ⑤ 中台遺跡
 ⑥ 上総国分僧寺跡 ⑦ 坊ヶ谷遺跡 ⑧ 十五沢遺跡群 ⑨ 今富廃寺跡 ⑩ 西野遺跡群

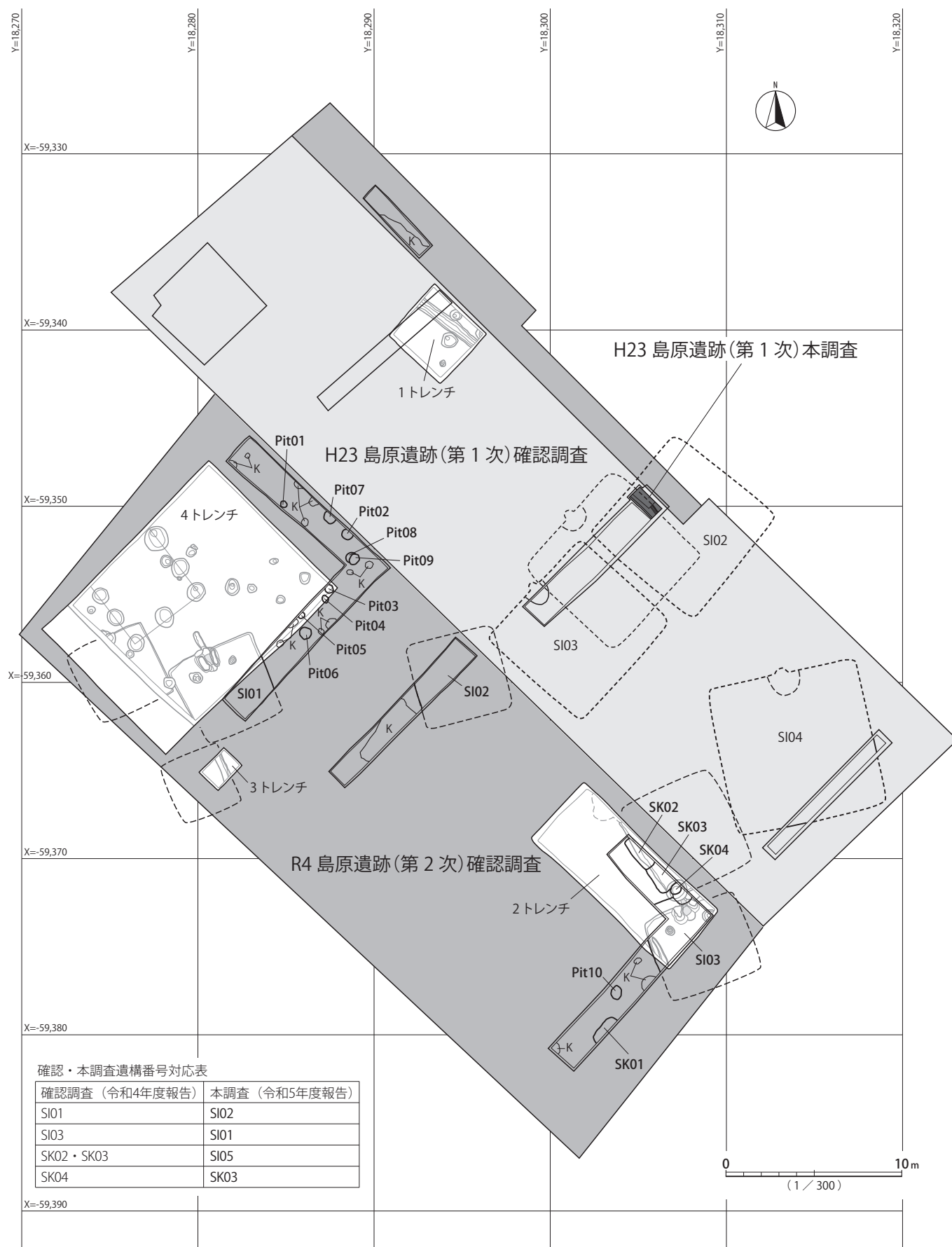
第1図 島原遺跡及び周辺遺跡位置図



第2図 島原遺跡周辺地形図



第3図 島原遺跡(第2次)全体図



第4図 島原遺跡(第1次)・(第2次)調査範囲

(2) 遺構と遺物

調査の結果、古墳時代後期の竪穴建物跡1棟、古墳時代終末期の竪穴建物跡1棟、同時期の掘立柱建物跡1棟、奈良時代の竪穴建物跡3棟、また古墳時代終末期から奈良時代に属すると考えられる溝1条・土坑3基・ピット14基が検出された。さらに検出された竪穴建物跡5棟の内3棟からカマドが検出された。出土遺物は古墳時代終末期に属する土師器の杯・甕が主体であり、鉄滓や鍛造剥片・羽口など鉄器製造との関連性を感じさせる遺物も出土している。

遺跡全体の一括取り上げ遺物には、非掲載遺物として土師器杯6点(29.6g)、土師器甕21点(209.2g)、不明土師器9点(20.5g)がある。

1 トレンチ(第5図、図版2・3)

1 トレンチからは溝状遺構1条(SD01)、不明土坑2基(SK01・SK02)、不明ピット2基(Pit01・Pit02)が検出された。

SD01(第5図、第15図1～3、図版2・9)

形態・規模 幅約0.7m、深さ約0.15mであり南東から北西方向に続いている。

出土遺物 1は須恵器を模倣した土師器蓋、2は鉄滓、3は鉄塊である。非掲載遺物として、弥生土器壺1点(5.4g)、土師器杯19点(81.4g)、土師器杯身3点(6.7g)、土師器甕82点(422.2g)、土師器壺10点(41.1g)、不明土器87点(135.5g)、礫3点(4.4g)、鉄滓19点(112.4g)がある。この遺構の特徴として第5図で示すように鉄滓や鉄塊が広く分布しており、その総数や重量は掲載遺物2・3も含めると21点(328.6g)を量る。

SK01・SK02(第5図、図版2)

形態・規模 それぞれ直径約0.8m、0.7m、深さ約0.4m、0.3mである。SK01はSD01の南西側、SK02はSD01の北東側に位置しており後者の南西部分はSD01を削平している。

出土遺物 非掲載遺物としてSK01は土師器杯7点(29.8g)、土師器甕22点(144.9g)、不明土師器12点(15.5g)、鉄製品1点(0.7g)がある。またSK02では土師器杯1点(2.2g)、土師器甕7点(32.4g)、不明土師器1点(2.1g)がある。

Pit01(第5図、図版2)

形態・規模 直径、深さともに約0.3mを測り、SK01の南側に位置している。

出土遺物 非掲載遺物として土師器杯2点(4.3g)、土師器甕5点(41.1g)、不明土師器3点(2.5g)、鉄滓1点(9.9g)がある。

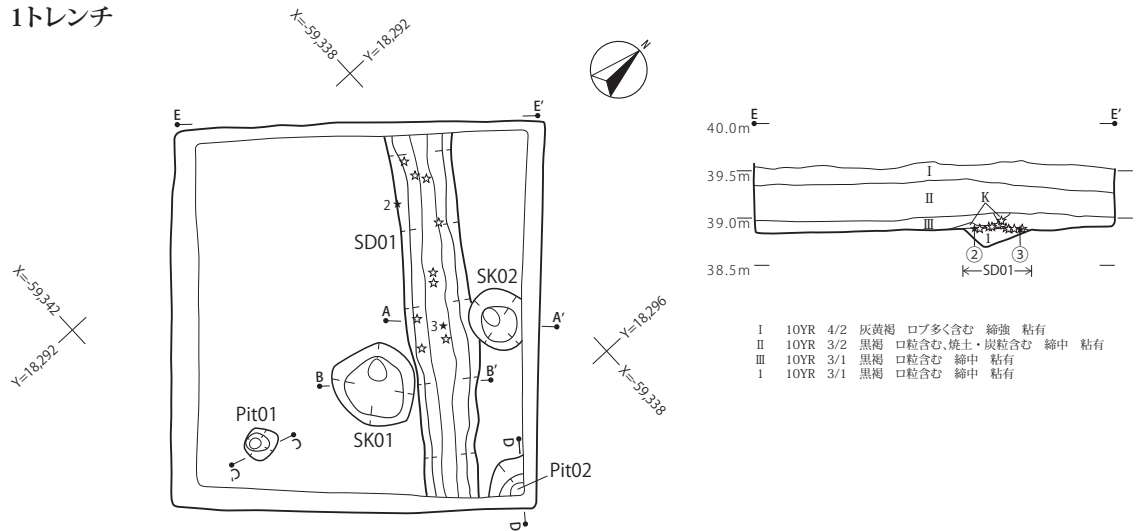
Pit02(第5図、図版3)

形態・規模 1 トレンチの南東角に位置しており、周の約3/4はトレンチ外にある。計測可能な範囲で深さは約0.5mであり、覆土からは遺物は検出されていない。

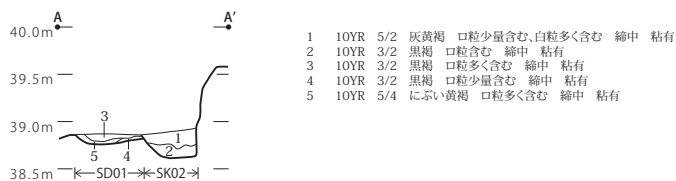
その他、1 トレンチ一括取り上げ遺物の中には、非掲載遺物として、土師器甕6点(34.1g)、礫2点(4.1g)、鉄滓1点(3.5g)がある。

小結 SK01・SK02・Pit01ともに時期を推定できる遺物は検出されていないものの、ロクロ土師器など古代の遺物が希薄な一方で、鬼高式と思われる杯や甕の破片が認められる。Pit01からは内面を黒色処理された杯の破片も確認されており、遡っても古墳時代終末期以降の遺構と考えられる。

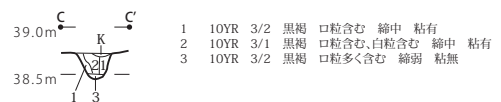
1トレンチ



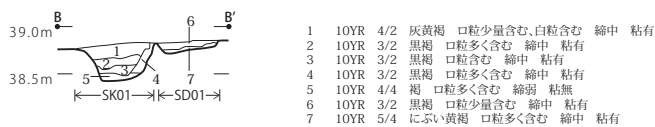
SD01、SK02



Pit01



SD01、SK01



Pit02



第5図 1トレンチ、SD01、SK01・02、Pit01・02 遺構図・断面図

SD01 と併せて、1 トレンチ内で検出された 4 遺構におそらく大きな時期差はなく古墳時代終末期以前には遡らないと想定される。

2 トレンチ (第 6 ～ 8 図、図版 3・4)

2 トレンチからは竪穴建物跡 2 棟 (SI01・SI05) と不明土坑 (SK03) が検出された。

SI01 (第 6 ～ 8 図、第 15 図 4 ～ 16、図版 3・4・9)

形態・規模 方形を呈し、2 トレンチ南東側に位置している。北西部を除き、竪穴の大半はトレンチの外側に展開しており、南西側壁面には周溝が部分的に伴う。主軸方位は N-65°-W、床面までの深さ約 0.3m であり、床面には貼床層が確認できる。北側壁面にはカマドが付随しており、煙道奥壁部は SK03 によって破壊されている。また、カマド両袖部の下からは直径約 0.3 ～ 0.5m、深さ約 0.5m のピット (SI01-P3・P4) が検出されている (第 7 図)。主柱穴 (SI01-P1・P2) は、カマド南西側と東側に位置し、両者の間隔は心々間で約 2.4m である。

出土遺物 4 は土師器の盤状杯、5 は内面に格子状の上総型暗文を施した土師器杯で 8 世紀中葉～

後葉の所産、6は須恵器を模倣した土師器高杯で8世紀前半のものと思われる。7～9は土師器甕、10は須恵器を模倣した土師器蓋である。11は底部に十状のヘラ記号が施された須恵器杯であり永田・不入窯Ⅲ期に属すると考えられる。12は東海産の須恵器広口壺、13は支脚でありカマドの掘方から出土した(図版4)。14は金床石片、15は8世紀以前の鉄鏝、16は流動滓である。非掲載遺物として弥生土器壺1点(5.1g)、土師器杯36点(177.3g)、内面黒色処理土師器杯1点(3.3g)、土師器甕419点(4,012.8g)、土師器台付甕2点(154.8g)、土師器小型甕1点(15.4g)、土師器壺12点(127.4g)、不明土師器322点(587.0g)、須恵器杯4点(16.5g)、不明土製品19点(193.6g)、礫14点(109.6g)、鉄滓9点(145.8g)、鉄製品1点(4.6g)がある。第6図はSI01内における鉄滓・流動滓・鉄製品の分布を示しており、掲載遺物15、16を含めると総数と重量はそれぞれ12点(230.6g)である。本遺構は、古代の土器類から8世紀後葉の所産と考えられる。

SI05(第6図、第15図17・18、図版4・9)

形態・規模 床面までの深さは約0.4mであり、遺構の大半は2トレンチ外に展開している。H23確認調査トレンチには検出されていないため、一辺約5mの規模が推定される。北西部は攪乱によって、南西部角はSK03によって破壊されているが、本竪穴は方形を呈すると考えられる。床面には貼床層が確認できる。

出土遺物 17は8世紀初頭の所産と思われる土師器杯、18は茎部に口巻が残存した鉄鏝である。非掲載遺物として土師器の杯22点(113.0g)、甕165点(1,250.0g)、台付甕1点(76.8g)、壺13点(79.6g)、不明土師器87点(155.6g)、支脚1点(97.9g)、須恵器杯1点(5.0g)、近世陶器瀬戸美濃系皿類1点(3.7g)、同筒型香炉1点(2.3g)、鉄滓1点(6.5g)がある。本遺構は、奈良時代に帰属する可能性が考えられる。

SK03(第6～8図、第16図19・20、図版4・10)

形態・規模 SI01カマド煙道部とSI05竪穴の南西部角に切り込む円形土坑で、直径約1.2m、深さ約1.3mを測る。

出土遺物 19は古墳時代後期(鬼高式)の所産と考えられる土師器甕、20は金床石片である。非掲載遺物として土師器甕28点(143.2g)、土師器壺類3点(13.3g)、不明土師器12点(18.4g)、須恵器杯1点(6.8g)、支脚3点(34.9g)、鉄滓2点(11.4g)がある。

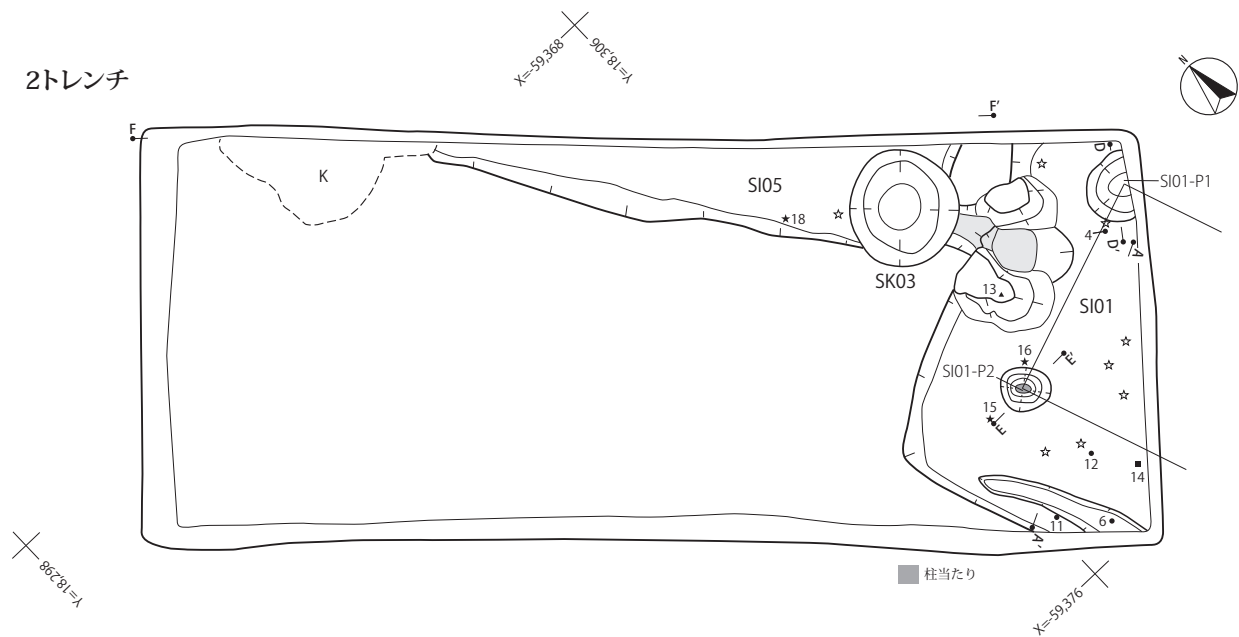
その他、2トレンチ一括取り上げ遺物の中には、非掲載遺物として銭貨1点(5.7g)、鉄滓1点(14.9g)、鉄製品1点(20.9g)がある。

小結 SI01とSI05は隣り合っているもののSI01の煙道部がSK03によって破壊されているため、構築順序を切り合い関係からは確定できない。両竪穴建物遺構の遺物を比較すると、SI01からは上総型暗文杯や永田・不入窯Ⅲ期に位置付けられる須恵器杯が出土していることから、8世紀後葉に属すると考えられる。一方、SI05からは時期推定できる遺物は少ないものの8世紀初頭に属すると考えられる土師器杯が出土している。よってSI05→SI01の順に建設されたと推察される。SK03については出土遺物の様相から、SI01の廃絶後間もなく形成されたと考えられる。

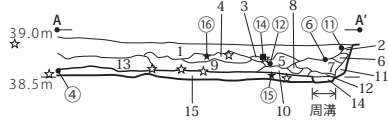
3トレンチ(第9図、図版4)

3トレンチからは竪穴建物跡1棟(SI04)が検出された。このトレンチは2m×1.5mと小規模であ

2トレンチ

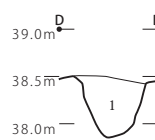


SI01



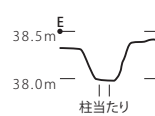
- 1 10YR 3/1 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む 締中 粘有
- 2 10YR 5/4 にぶい黄褐 ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む 締弱 粘無
- 3 10YR 3/1 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む 締弱 粘有
- 4 10YR 3/1 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む 締中 粘有
- 5 10YR 3/1 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む 締中 粘有
- 6 10YR 3/2 黒褐 ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む 締中 粘有
- 7 10YR 3/2 黒褐 ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む 締中 粘有
- 8 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む 締強 粘有
- 9 10YR 3/1 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む 締中 粘有
- 10 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む 締中 粘有
- 11 10YR 3/1 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む 締中 粘有
- 12 10YR 3/1 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む 締弱 粘有
- 13 10YR 3/1 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む 締強 粘有
- 14 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む、焼土・炭粒少量含む 締中 粘有
- 15 10YR 4/4 褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む 締非強 粘有 貼床

SI01-P1

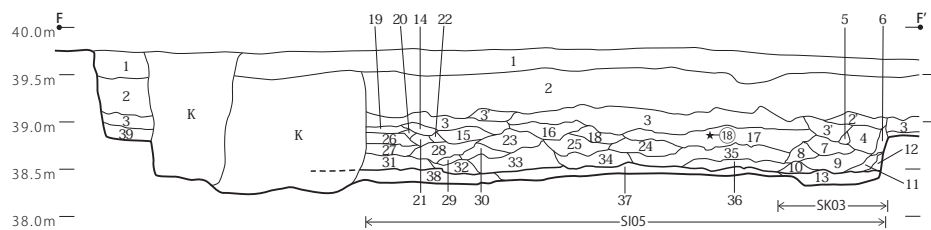


- 1 10YR 2/2 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む 締中 粘有

SI01-P2



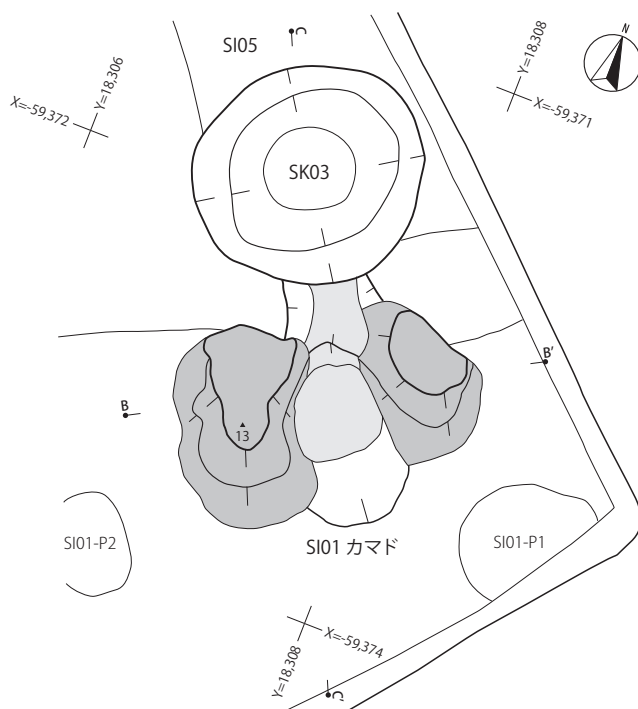
SI05



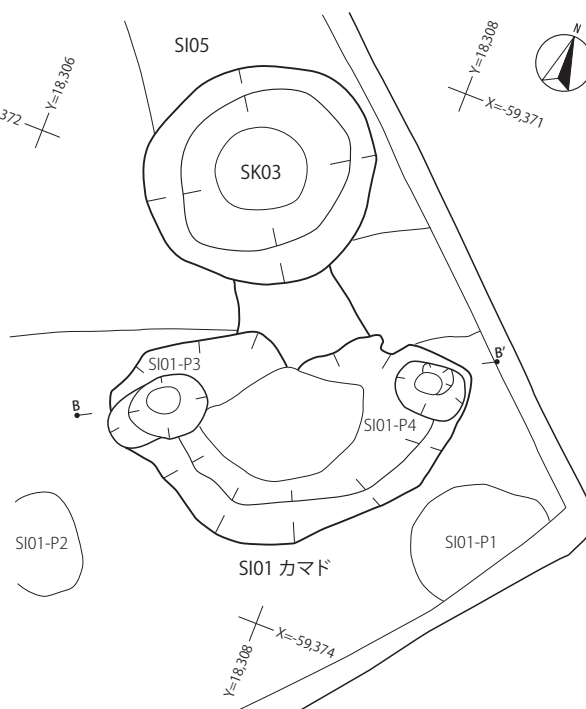
- 1 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロブ多く含む 締中 粘無
- 2 10YR 3/3 暗褐 ロブ多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む 締非強 粘有
- 2' 10YR 2/3 黒褐 ロブ含む、焼土・炭粒含む、ロ粒含む 締弱 粘有
- 3 10YR 3/2 黒褐 ロブ含む、ロ粒含む 締強 粘有
- 3' 10YR 3/3 暗褐 ロブ含む、ロ粒含む 締弱 粘有
- 4 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む 締強 粘有
- 5 10YR 3/2 黒褐 ロブ多く含む、ロ粒多く含む 締中 粘有
- 6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む 締中 粘有
- 7 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む 締中 粘有
- 8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む 締中 粘有
- 9 10YR 3/2 黒褐 ロブ少量含む、ロ粒少量含む 締中 粘有
- 10 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む 締中 粘有
- 11 10YR 3/3 暗褐 ロブ多く含む、焼土・炭粒含む、ロ粒多く含む 締弱 粘有
- 12 10YR 3/3 暗褐 ロブ多く含む、ロ粒多く含む 締弱 粘有
- 13 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロブ多く含む、ロ粒多く含む 締非強 粘有 貼床
- 14 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む 締中 粘有
- 15 10YR 2/2 黒褐 ロ粒含む 締中 粘有
- 16 10YR 2/2 黒褐 ロ粒含む 締弱 粘有
- 17 10YR 2/3 黒褐 ロ粒含む 締弱 粘有
- 18 10YR 2/1 黒 ロ粒含む 締中 粘有
- 19 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒多く含む 締弱 粘有
- 20 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒多く含む 締弱 粘有
- 21 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む 締弱 粘有
- 22 10YR 2/3 黒褐 ロ粒多く含む 締弱 粘有
- 23 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む 締中 粘有
- 24 10YR 3/2 黒褐 ロブ多く含む、焼土・炭粒含む、ロ粒多く含む 締中 粘有
- 25 10YR 3/2 黒褐 ロブ多く含む、焼土・炭粒含む、ロ粒多く含む 締中 粘有
- 26 10YR 3/3 暗褐 ロブ含む、焼土・炭粒含む、ロ粒含む 締中 粘有
- 27 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む 締中 粘有
- 28 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む 締中 粘有
- 29 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む 締中 粘有
- 30 10YR 3/2 黒褐 ロ粒少量含む、焼土・炭粒含む 締中 粘有
- 31 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む 締中 粘有
- 32 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む、焼土・炭粒含む 締中 粘有
- 33 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む 締中 粘有
- 34 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む 締中 粘有
- 35 10YR 3/1 黒褐 ロ粒少量含む 締中 粘有
- 36 10YR 3/2 黒褐 ロブ多く含む、焼土・炭粒含む、ロ粒多く含む 締中 粘有
- 37 10YR 4/2 灰黄褐 ロブ多く含む、焼土・炭粒含む、ロ粒多く含む 締強 粘有 貼床
- 38 10YR 4/2 灰黄褐 ロブ多く含む、焼土・炭粒含む、ロ粒多く含む 締強 粘有 貼床
- 39 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒多く含む 締中 粘有

第6図 2トレンチ、SI01・05、SK03 遺構図・断面図

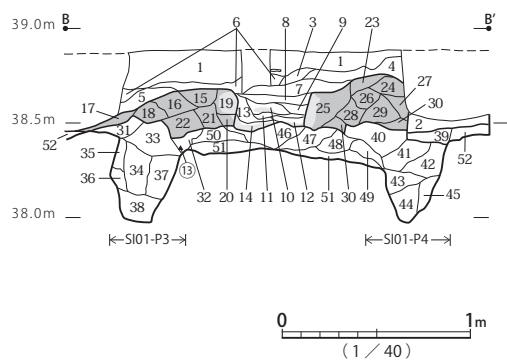
SI01カマド、SK03



SI01カマド掘方、SK03



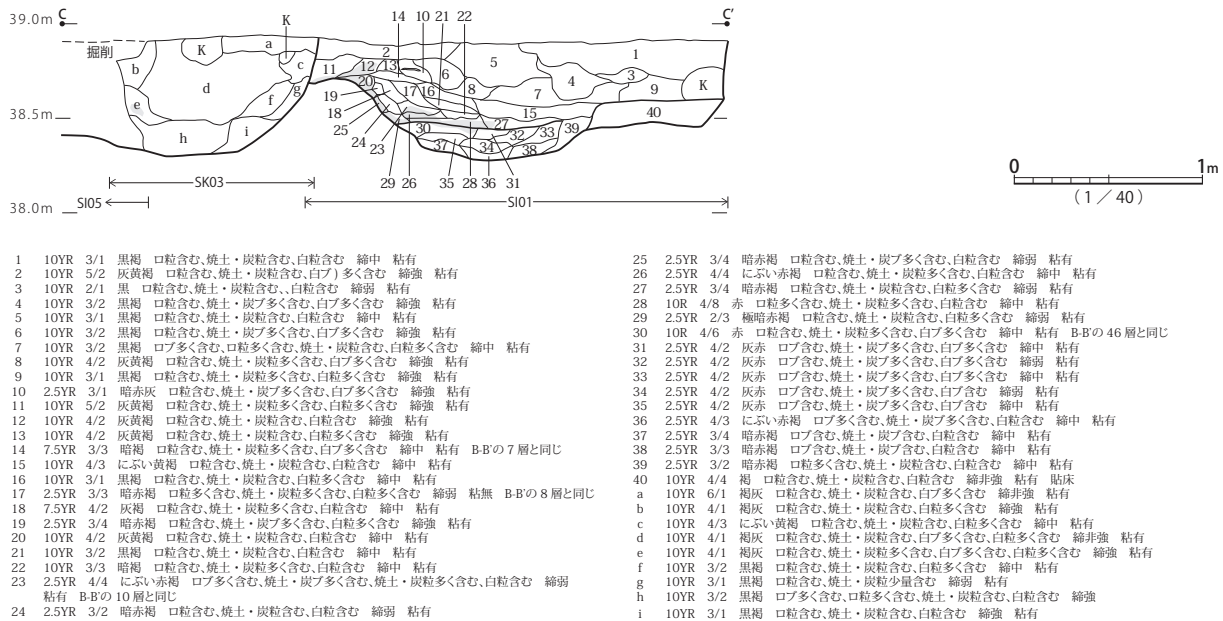
SI01カマド掘方



1	10YR	5/2	灰黄褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白ブ多く含む	締強	粘有
2	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締中	粘有
3	10YR	4/1	褐灰	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有
4	10YR	4/1	褐灰	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有
5	10YR	4/1	褐灰	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締中	粘有
6	2.5YR	3/1	暗赤灰	ロ粒含む、焼土・炭ブ多く含む、白ブ多く含む	締強	粘有
7	7.5YR	3/3	暗褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む	締中	粘有 C.Cの14層と同じ
8	2.5YR	3/3	暗赤褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締弱	粘無 C.Cの17層と同じ
9	2.5YR	3/3	暗赤褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒含む	締中	粘有
10	2.5YR	4/4	にふい赤褐	ロブ多く含む、焼土・炭ブ多く含む、焼土・炭粒多く含む、白粒含む	締弱	粘有 C.Cの23層と同じ
11	2.5YR	4/4	にふい赤褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒含む	締中	粘有
12	10R	4/8	赤	ロ粒多く含む、焼土・炭粒多く含む、白粒含む	締中	粘有
13	2.5YR	2/2	極暗赤褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む、白ブ多く含む	締弱	粘有
14	7.5YR	3/3	暗褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締中	粘有
15	2.5YR	4/1	赤灰	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締非強	粘有
16	2.5YR	4/2	灰赤	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締非強	粘有
17	2.5YR	4/2	灰赤	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締中	粘有
18	2.5YR	4/1	赤灰	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締中	粘有
19	2.5YR	4/3	にふい赤褐	ロ粒多く含む、焼土・炭ブ多く含む、白粒多く含む	締中	粘有
20	2.5YR	4/2	灰赤	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締中	粘有
21	2.5YR	4/2	灰赤	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締中	粘有
22	2.5YR	6/1	赤灰	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締非強	粘有
23	5YR	5/1	褐灰	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締非強	粘有
24	5YR	6/1	褐灰	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締非強	粘有
25	5YR	5/1	褐灰	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締強	粘有
26	5YR	7/1	明褐灰	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締非強	粘有
27	5YR	4/1	褐灰	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締強	粘有
28	10YR	5/3	にふい黄褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締強	粘有
29	10YR	4/1	褐灰	ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締強	粘有
30	10YR	3/3	暗褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締強	粘有
31	2.5YR	4/2	灰赤	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締中	粘有
32	2.5YR	5/1	赤灰	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む、白粒多く含む	締弱	粘有
33	10YR	4/2	灰黄褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締弱	粘有
34	10YR	3/1	黒褐	ロブ多く含む、焼土・炭粒多く含む	締中	粘有
35	10YR	4/2	灰黄褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒含む	締中	粘有
36	10YR	4/2	灰黄褐	ロ粒少量含む、焼土・炭粒多く含む、白粒含む	締中	粘有
37	10YR	4/2	灰黄褐	ロ粒少量含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締中	粘有
38	10YR	3/1	黒褐	ロ粒少量含む、焼土・炭粒少量含む、白粒少量含む	締中	粘有
39	10YR	3/3	暗褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締強	粘有
40	10YR	4/3	にふい黄褐	ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む	締中	粘有
41	10YR	3/3	暗褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒少量含む	締中	粘有
42	10YR	3/4	暗褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒少量含む	締中	粘有
43	10YR	3/4	暗褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒少量含む	締弱	粘有
44	10YR	3/4	暗褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒少量含む	締弱	粘有
45	10YR	2/1	黒	ロ粒少量含む、焼土・炭粒含む、白粒少量含む	締中	粘有
46	10R	4/6	赤	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む	締中	粘有 C.Cの30層と同じ
47	10YR	4/1	褐灰	ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有
48	10YR	4/3	にふい黄褐	ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘有
49	10YR	4/3	にふい黄褐	ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有
50	10YR	4/1	褐灰	ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有
51	10YR	4/4	褐	ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有
52	10YR	4/4	褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締非強	粘有 貼床

第7図 2トレンチ、SI01カマド、SK03 遺構図・断面図(1)

SI01カマド、SK03



第8図 2トレンチ、SI01カマド、SK03 断面図(2)

りSI04の検出範囲もトレンチの東側のみであった。

SI04 (第9図、図版4)

形態・規模 床面までの深さは約0.1mであり、2トレンチのSI01と同様に壁面に沿って周溝が掘り込まれていた。部分的な検出で平面形と規模は不明だが、周辺の様相から方形と推定される。覆土に粘土粒は認められず、カマドの存否は不明である。

出土遺物 非掲載遺物として土師器杯12点(37.5g)、内面黒色処理土師器杯1点(6.4g)、土師器甕52点(294.0g)、土師器壺類3点(14.5g)、不明土師器19点(25.1g)、支脚1点(16.0g)、軽石5点(10.6g)がある。時期判定に有効な遺物は確認できないものの、古墳時代後期から終末期に属すると見られる土師器片が多いことから、本遺構も古墳時代後期から終末期の所産と想定される。

その他、3トレンチ一括取り上げ遺物の中には、非掲載遺物として土師器甕3点(26.0g)、不明土師器3点(6.4g)、礫5点(71.7g)がある。

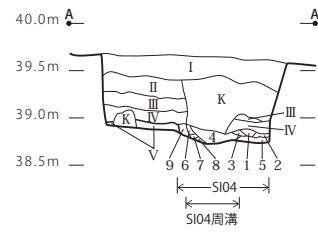
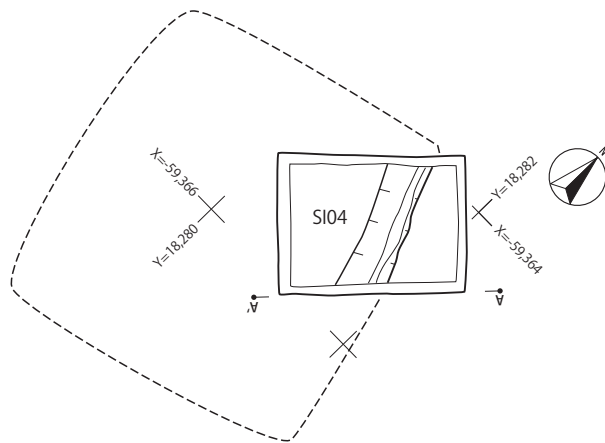
4トレンチ(第9～14図、図版5・7・8)

4トレンチからは竪穴建物跡2棟(SI02・SI03)、掘立柱建物跡1棟(SB01)、不明ピット12基(Pit03～Pit14)が確認されている。

SI02(第9～11図、第16図21～30、図版5・6・10)

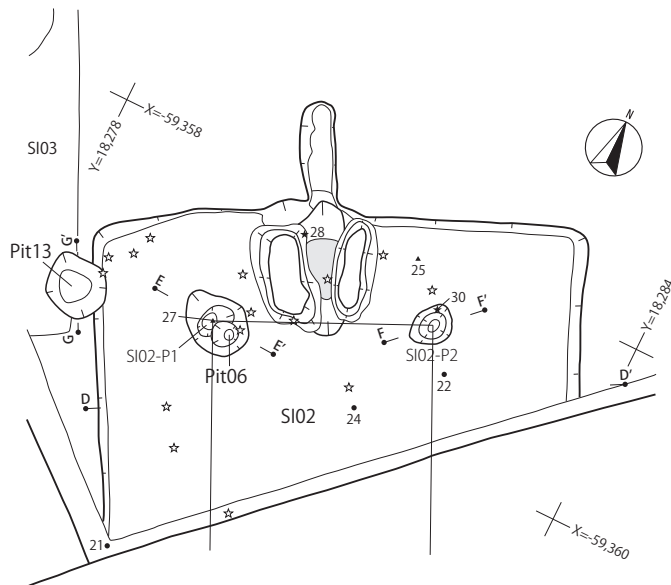
形態・規模 方形を呈し、北東-南西軸約5.2m、主軸方位N-60°-W、床面までの深さ約0.25mを測る。床面には貼床層が確認できる。北西壁面にはカマドが付随しており、柱穴はカマドの南西側(SI02-P1)と東側(SI02-P2)に位置している。両者の柱穴心々間距離は約2.4mであり、SI01の柱穴間距離と同等である。またカマド両袖部の下からは直径約0.3m、深さ約0.3mのピット(SI02-P3・SI02-P4)が検出されている。

3トレンチ、SI04

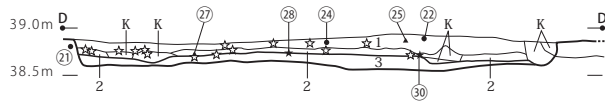


I	10YR	4/2	灰黄褐	口粒少量含む	締中	粘有
II	10YR	3/2	黒褐	口粒含む、焼土・炭粒含む	締中	粘有
III	10YR	3/1	黒褐	口粒含む	締中	粘有
IV	10YR	3/3	暗褐	口粒多く含む、焼土・炭粒含む	締中	粘有
V	10YR	5/6	黄褐	ロブ多く含む、口粒多く含む	締強	粘無
1	10YR	3/2	黒褐	口粒少量含む	締中	粘有
2	10YR	4/2	灰黄褐	口粒多く含む	締中	粘有
3	10YR	4/2	灰黄褐	口粒多く含む	締中	粘有
4	10YR	3/2	黒褐	口粒多く含む	締中	粘有
5	10YR	4/3	にぶい黄褐	口粒多く含む	締中	粘有
6	10YR	4/3	にぶい黄褐	口粒多く含む	締中	粘有
7	10YR	4/4	褐	口粒多く含む	締弱	粘無
8	10YR	4/4	褐	口粒多く含む	締中	粘有
9	10YR	3/4	暗褐	口粒多く含む	締弱	粘有

4トレンチ、SI02、Pit06・13

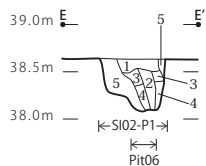


SI02



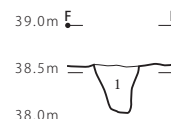
1	10YR	3/1	黒褐	口粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有
2	10YR	3/2	黒褐	口粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む	締強	粘有
3	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロブ多く含む、口粒多く含む、焼土・炭粒多く含む	締強	粘有 粘床

SI02-P1, Pit06



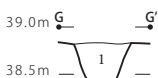
1	10YR	4/3	にぶい黄褐	口粒少量含む、白粒含む	締中	粘有
2	10YR	3/2	黒褐	口粒多く含む	締中	粘有
3	10YR	3/2	黒褐	口粒含む	締中	粘有
4	10YR	3/2	黒褐	口粒多く含む	締中	粘有
5	10YR	2/2	黒褐	口粒含む	締弱	粘無

SI02-P2

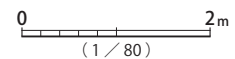


1	10YR	2/2	黒褐	口粒少量含む	締中	粘有
---	------	-----	----	--------	----	----

Pit13

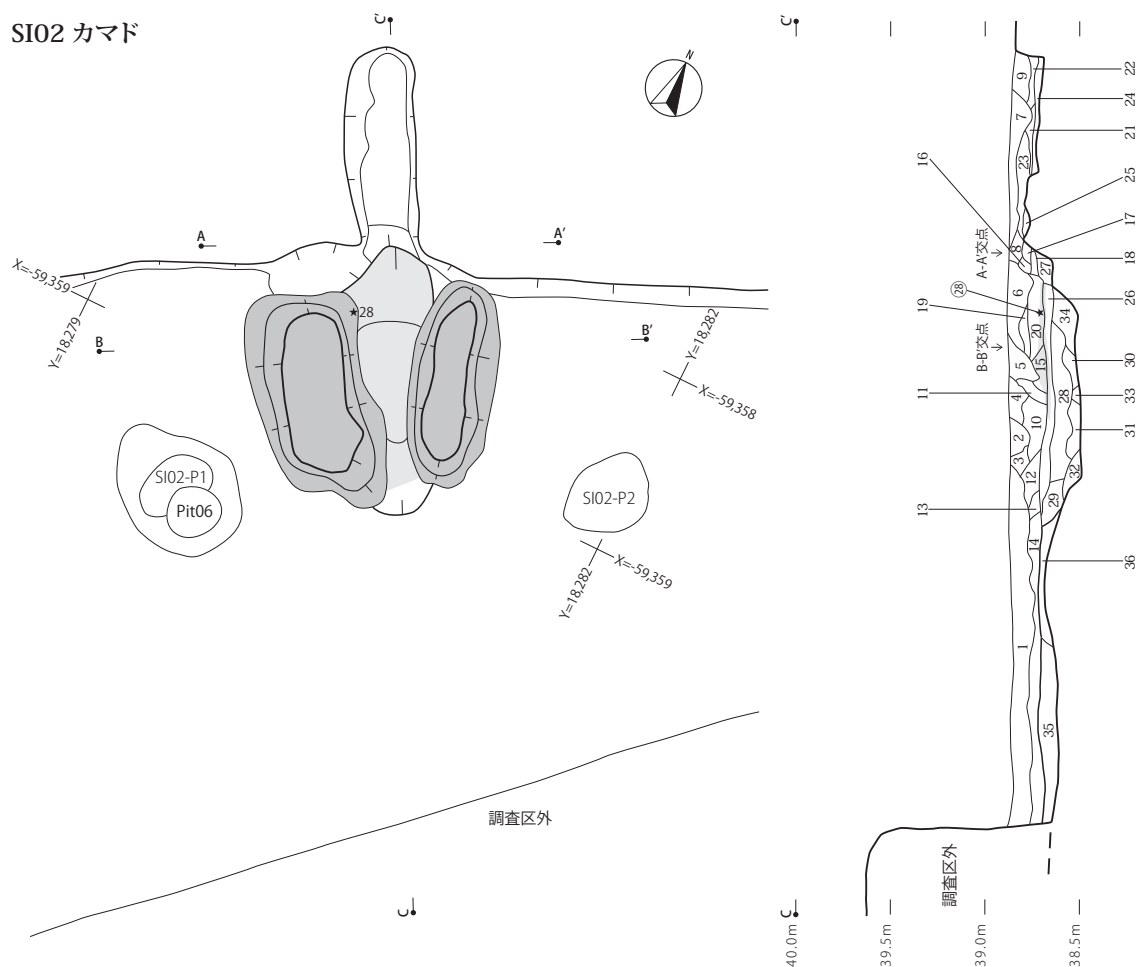


1	10YR	3/2	黒褐	口粒少量含む	締中	粘有
---	------	-----	----	--------	----	----



第9図 3トレンチ、SI04、4トレンチ、SI02、Pit06・13 遺構図・断面図

SI02 カマド

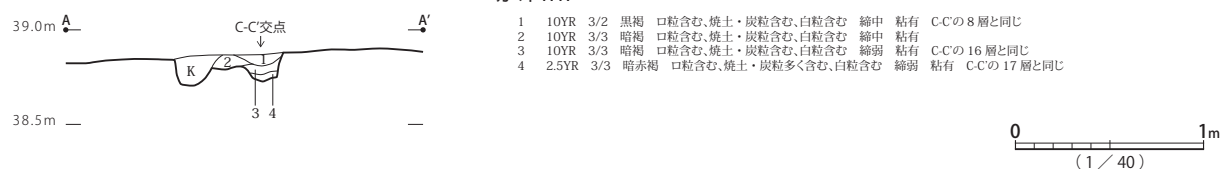


カマドC-C'

1	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有	19	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有	B-B'の12層と同じ
2	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有	20	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘有	B-B'の14層と同じ
3	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘無	21	10YR	3/4	暗褐	ロブ含む、ロ粒含む、焼土・炭粒少量含む	締中	粘有	
4	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有	22	10YR	3/3	暗褐	ロブ含む、ロ粒含む、焼土・炭粒含む	締弱		
5	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締中	粘有	23	10YR	3/2	黒褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒少量含む	締中	粘有	
6	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有	24	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒少量含む	締中	粘有	
7	10YR	4/1	褐灰	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む	締弱	粘無	25	10YR	4/4	褐	ロ粒多く含む	締弱	粘有	
8	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有	26	2.5YR	4/3	にぶい赤褐	焼土・炭粒多く含む、ロ粒多く含む	締中	粘有	B-B'の17層と同じ
9	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘有	27	10YR	3/3	暗褐	ロブ含む、焼土・炭粒含む、ロ粒含む	締中	粘有	
10	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む	締強	粘有	28	2.5YR	3/1	暗赤灰	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締中	粘有	B-B'の23層と同じ
11	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘無	29	10YR	3/1	黒褐	ロブ含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締強	粘有	
12	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締強	粘有	30	10YR	3/1	黒褐	ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘有	
13	10YR	3/3	暗褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘無	31	10YR	3/1	黒褐	ロブ多く含む、焼土・炭粒少量含む、ロ粒多く含む	締中	粘有	
14	10YR	3/1	黒褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒少量含む	締中	粘有	32	10YR	3/2	黒褐	ロブ多く含む、焼土・炭粒少量含む、ロ粒多く含む	締弱	粘有	
15	2.5YR	3/3	暗赤褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締弱	粘有	33	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロブ多く含む、ロ粒多く含む	締弱	粘有	
16	10YR	3/3	暗褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘有	34	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘有	B-B'の28層と同じ
17	2.5YR	3/3	暗赤褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒含む	締弱	粘有	35	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む	締強	粘有	貼床
18	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有	36	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒多く含む	締強	粘有	貼床

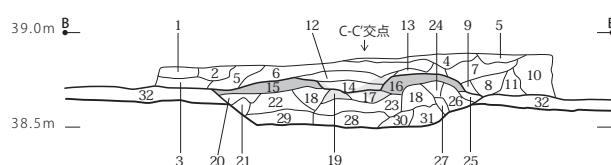
カマドA-A'

1	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有	C-C'の8層と同じ
2	10YR	3/3	暗褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有	
3	10YR	3/3	暗褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘有	C-C'の16層と同じ
4	2.5YR	3/3	暗赤褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白粒含む	締弱	粘有	C-C'の17層と同じ



第10図 4トレンチ、SI02 カマド 遺構図・断面図(1)

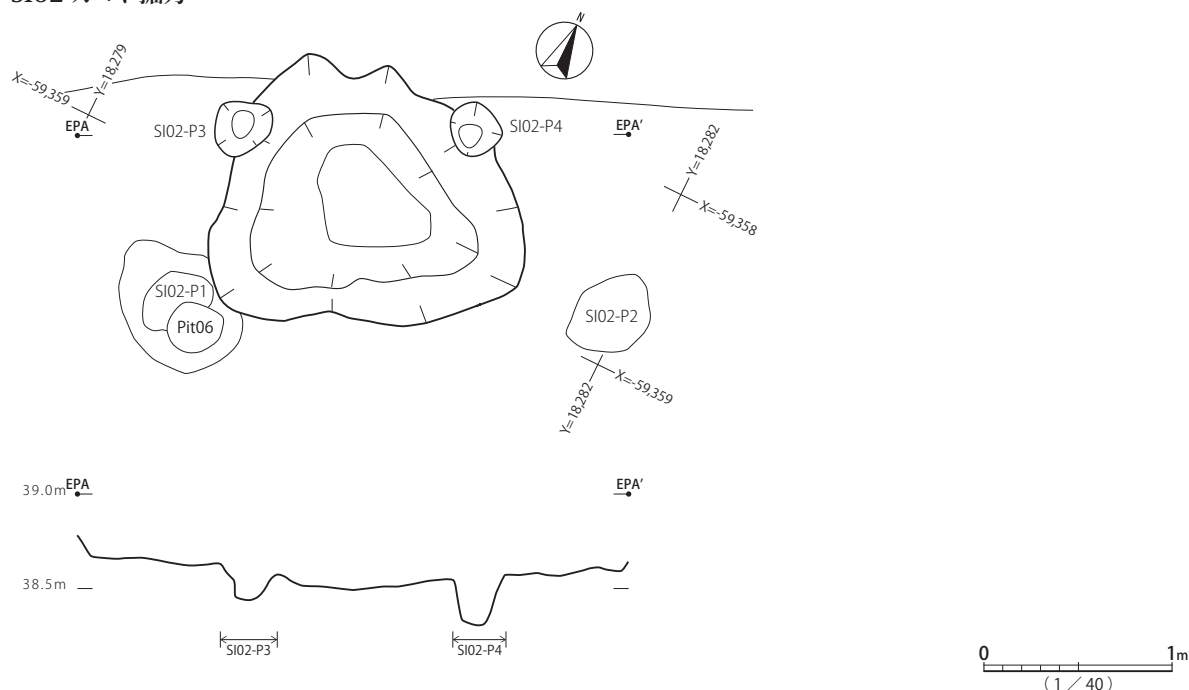
出土遺物 21 は土師器台付甕の脚部、22 は土師器甕、23 は新治産の須恵器杯、24 は須恵器蓋である。25 は支脚、26 と 27 は羽口であり外面の一部が発泡していることから送風口付近の一部と考えられる。28 は鋤が残存した完形の刀子でありカマドの焚口内より出土した(図版 5)。29 は鍛造剥片、30 は鉄滓である。非掲載遺物として土師器杯 51 点(172.8g)、内面黒色処理土師器杯 1 点(3.6g)、土師器杯身 3 点(10.1g)、土師器甕 360 点(2,570g)、土師器台付甕 1 点(17.6g)、土師



カマド B-B'

1	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白ブ多く含む	締中	粘有
2	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、やや多く白粒含む	締中	粘無
3	10YR	4/2	灰黄褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、やや多く白粒含む	締中	粘有
4	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む	締中	粘有 C-Cの5層と同じ
5	10YR	4/2	灰黄褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む	締中	粘有 C-Cの6層と同じ
6	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有 C-Cの6層と同じ
7	10YR	4/1	褐灰	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白ブ多く含む	締強	粘有
8	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘無
9	10YR	4/1	褐灰	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む	締中	粘有
10	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有
11	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有
12	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有 C-Cの19層と同じ
13	10YR	4/1	褐灰	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締中	粘有
14	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘有 C-Cの20層と同じ
15	10YR	4/1	褐灰	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む	締非強	粘有
16	10YR	4/1	褐灰	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む	締非強	粘有
17	2.5YR	4/3	にぶい赤褐	焼土・炭粒多く含む、ロ粒多く含む	締中	粘有 C-Cの26層と同じ
18	10YR	3/3	暗褐	ロブ含む、焼土・炭粒含む、ロ粒含む	締弱	粘有
19	2.5YR	3/6	暗赤褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締中	粘有
20	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒多く含む、白粒多く含む	締弱	粘有
21	10YR	3/1	黒褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒少量含む	締中	粘有
22	2.5YR	3/1	暗赤灰	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白ブ含む	締中	粘有
23	2.5YR	3/1	暗赤灰	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む	締中	粘有 C-Cの28層と同じ
24	7.5YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む	締中	粘有
25	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む	締中	粘有
26	7.5YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む	締中	粘有
27	10YR	3/2	黒褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む	締弱	粘無
28	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白ブ含む	締弱	粘有 C-Cの34層と同じ
29	10YR	4/4	褐	ロブ多く含む、焼土・炭粒少量含む、ロ粒多く含む	締中	粘有
30	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白ブ含む	締弱	粘有
31	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒多く含む、焼土・炭粒少量含む	締弱	粘無
32	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒多く含む	締強	粘有 貼床

SI02 カマド掘方



第11図 4トレンチ、SI02 カマド 遺構図・断面図(2)

器壺 27 点 (148.3g)、不明土師器 355 点 (644.4g)、須恵器杯 1 点 (1.6g)、須恵器杯身 1 点 (5.3g)、支脚 3 点 (278.2g)、羽口 2 点 (10.1g)、不明土製品 8 点 (37.4g)、黒曜石剥片 1 点 (0.3g)、礫 8 点 (31.0g)、鉄滓 22 点 (143.2g)、鉄製品 3 点 (13.8g) がある。第 9 図は SI02 内における鉄滓・鍛造剥片・鉄製品の分布を示しており、第 16 図 28～30 を含めると総数と重量はそれぞれ 28 点 (210.4g) である。本遺構は、奈良時代の所産と考えられる。

SI03 (第 12 図、第 17 図 31～34、図版 6・8・10)

形態・規模 方形を呈し、北西-南東軸約 4.5m、床面までの深さ 0.3～0.4m を測る。床面には貼床層が確認できる。北東壁面にはカマドが付随していたが、袖部は後世に攪乱され調査時には僅かに残るのみであった。カマドの南西側約 1m には SI03 の柱穴が位置し (SI03-P1)、直径は約 0.4m である。

出土遺物 31 はほぼ完形の土師器甕でありカマドと北東角の間、床面直上から出土した(図版6)。32 は土師器甕、33 は羽口である。羽口の送風口付近には鉄分(熔着滓)が付着している。また34 は柱穴(SI03-P1)から出土した土師器杯であり、古墳時代後期前葉(鬼高式)の所産と考えられる。非掲載遺物としては、土師器杯6点(39.5g)、内面黒色処理土師器杯1点(4.5g)、土師器甕75点(609.4g)、土師器壺5点(16.4g)、不明土師器50点(134.7g)、新治産の須恵器杯1点(2.3g)、須恵器杯1点(3.5g)、支脚1点(299.6g)、不明土製品2点(11.1g)、軽石2点(2.0g)、鉄滓2点(27.8g)がある。さらにSI01-P1から出土した非掲載遺物としては土師器甕1点(59.5g)がある。第12図はSI03内における鉄滓の分布を示している。本遺構は、古墳時代後期に位置づけられる。

SB01(第13図、第17図35~38、図版6・7・10)

形態・規模 桁行3間以上、梁行2間の掘立柱建物跡である。梁行は約4.6m、桁行は6m以上の規模が推定される。柱間距離は1.8~2.3m、柱穴の深さは0.6~0.8mと疎らであり、柱通りも悪いことからこの掘立柱建物は粗雑な建物であったと推察される。加えて、建て替えの痕跡は認められない。棟の方位はN-55°-Wであり、SI02・SI03と比べ西に傾いている。

出土遺物 35 は土師器杯身であり古墳時代後期後葉(鬼高式)に位置づけられる。36 は羽口、37 は土師器杯、38 は東海産の須恵器杯身であり7世紀末~8世紀初頭のものと思われる。非掲載遺物としては、SB01-P6を除く6つの柱穴から遺物が確認されており、弥生土器壺3点(13.0g)、不明弥生土器2点(15.0g)、土師器杯31点(146.5g)、内面黒色処理土師器杯2点(16.6g)、土師器杯身1点(5.3g)、土師器甕179点(1,334.4g)、土師器壺類7点(51.7g)、不明土師器63点(81g)、須恵器杯3点(9.7g)、須恵器瓶壺類3点(46.5g)、羽口1点(5.3g)、不明土製品3点(36.4g)、鉄滓2点(11.8g)がある。本遺構は、古墳時代終末期から古代の所産と推定される。

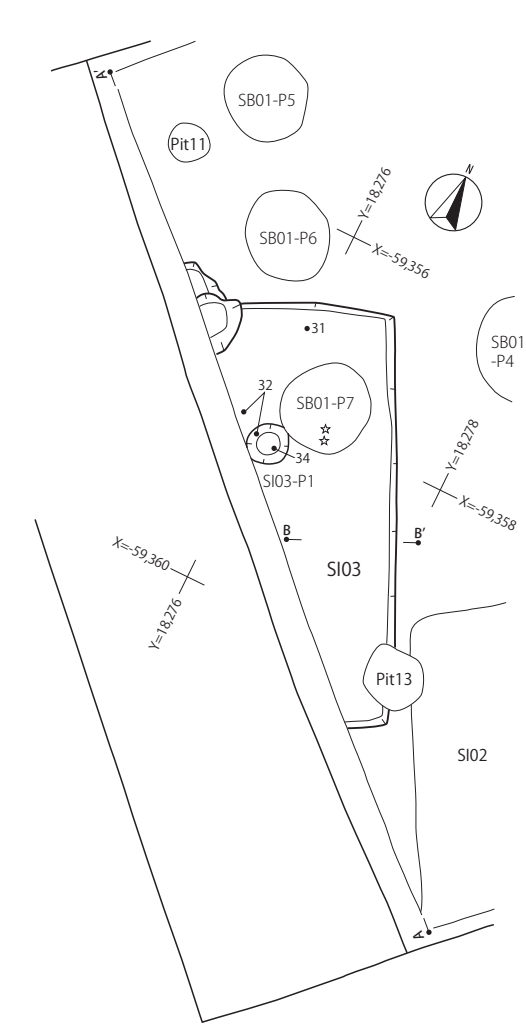
ピット(第13・14図、第17図39~41、図版7・10)

形態・規模 その他、建物を構成しない性格不明のピット12基を検出している。Pit06はSI02覆土中で検出されており、SI02-P1を掘り込む別時期の穴、もしくは立ち腐れによる柱痕跡の可能性がある。またPit13はSI02・SI03の竪穴壁を掘り込んでいる。

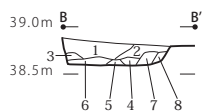
出土遺物 39 はPit05から検出された鍛造剥片であり、40 はPit06から検出されたロクロ土師器の丸底杯である。非掲載遺物として、Pit03からは土師器杯3点(11.4g)、土師器甕5点(31.2g)、礫1点(10.0g)が出土した。Pit04には土師器杯9点(30.8g)、土師器甕30点(173.8g)、土師器壺4点(22.5g)、不明土師器12点(14.3g)、須恵器瓶壺類1点(4.0g)がある。Pit05には土師器杯10点(32.4g)、土師器甕50点(374.9g)、土師器壺5点(36.6g)、不明土師器19点(30.0g)、鉄滓4点(22.6g)がある。Pit06には土師器杯2点(9.9g)、土師器甕24点(118.5g)、土師器壺3点(8.4g)、不明土師器10点(11.0g)、鉄滓3点(27.8g)がある。Pit07には土師器杯1点(3.0g)、土師器甕16点(126.3g)、不明土師器9点(16.6g)、鉄滓3点(8.2g)がある。Pit08には土師器杯2点(3.5g)、土師器甕23点(89.7g)、土師器壺2点(16.3g)、不明土師器5点(2.4g)、礫1点(129.3g)がある。Pit09には土師器杯3点(12.7g)、土師器甕25点(111.6g)、不明土師器5点(6.1g)、軽石1点(0.7g)がある。Pit11には土師器杯3点(10.0g)、土師器甕1点(3.9g)がある。Pit13には土師器甕11点(85.6g)、不明土師器1点(1.5g)、鉄滓1点(5.6g)がある。

その他、4トレンチ一括取り上げ遺物がある。41は土師器高杯である。また非掲載遺物として弥

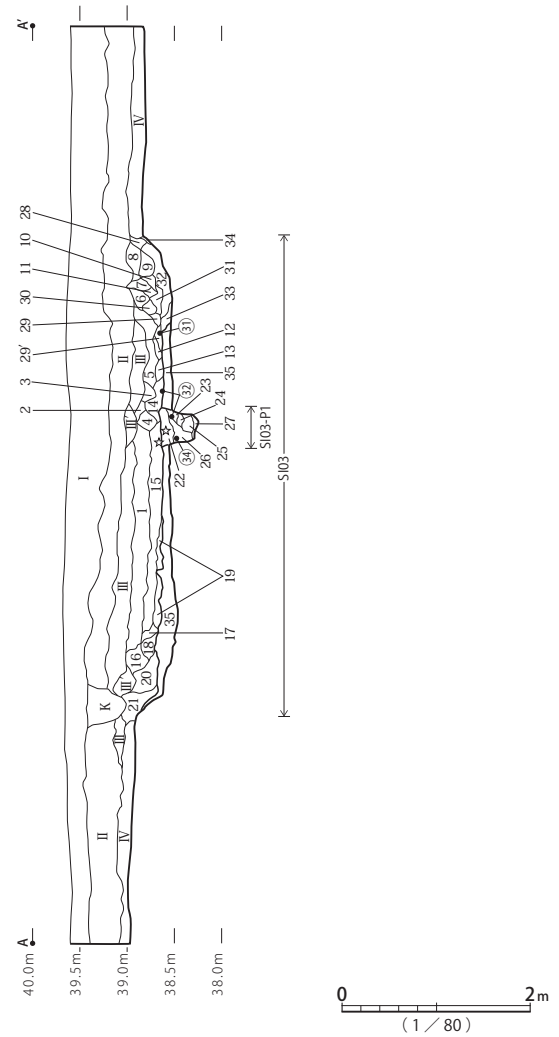
4トレンチ、SI03



SI03



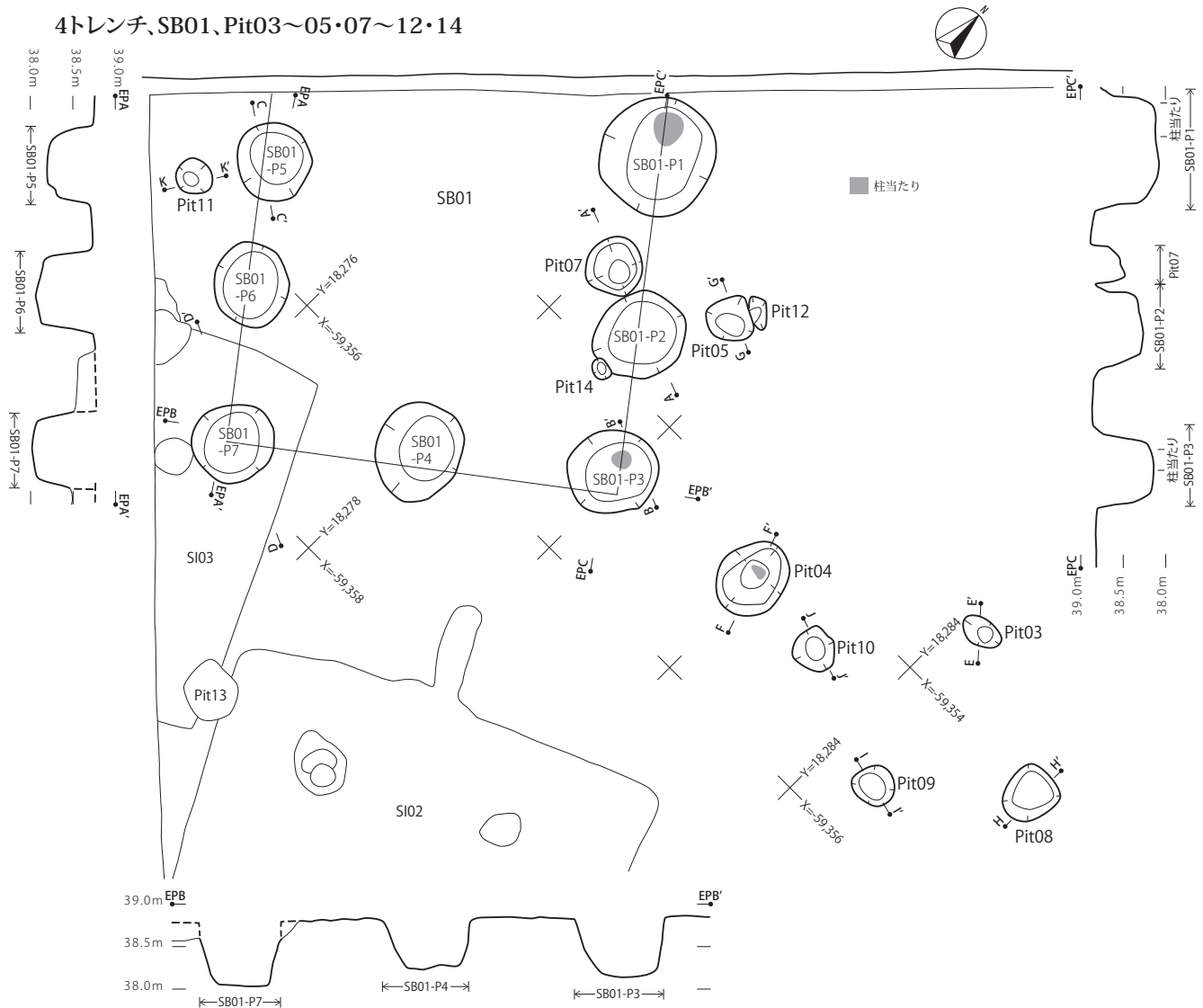
- | | | | | | | |
|---|------|-----|----|------------------------|----|----|
| 1 | 10YR | 3/1 | 黒褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む | 締中 | 粘有 |
| 2 | 10YR | 3/1 | 黒褐 | ロブ含む、ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む | 締中 | 粘有 |
| 3 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロ粒含む、焼土・炭粒含む | 締中 | 粘有 |
| 4 | 10YR | 3/1 | 黒褐 | ロ粒含む | 締弱 | 粘有 |
| 5 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む | 締弱 | 粘有 |
| 6 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロ粒含む | 締中 | 粘有 |
| 7 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 8 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロ粒含む | 締弱 | 粘有 |



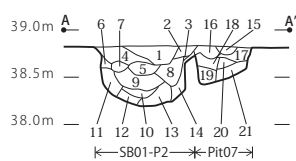
- | | | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-------------------------|-----|-------|
| I | 10YR | 4/2 | 灰黄褐 | ロ粒少量含む | 締中 | 粘有 |
| II | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロ粒含む、焼土・炭粒含む | 締中 | 粘有 |
| III | 10YR | 3/1 | 黒褐 | ロ粒含む | 締中 | 粘有 |
| IV | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロブ多く含む、ロ粒多く含む | 締強 | 粘有 |
| 1 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む | 締中 | 粘有 |
| 2 | 10YR | 3/1 | 黒褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む | 締中 | 粘有 |
| 3 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む | 締弱 | 粘無 |
| 4 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐 | ロブ多く含む、ロ粒多く含む | 締弱 | 粘無 |
| 5 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロブ多く含む、ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 6 | 10YR | 3/1 | 黒褐 | ロブ含む、ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む | 締中 | 粘有 |
| 7 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロブ含む、ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む | 締中 | 粘有 |
| 8 | 10YR | 4/1 | 褐灰 | ロブ含む、ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む | 締中 | 粘有 |
| 9 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒少量含む | 締中 | 粘有 |
| 10 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロ粒少量含む、焼土・炭粒含む、白粒少量含む | 締中 | 粘有 |
| 11 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 12 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白粒含む | 締中 | 粘有 |
| 13 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む | 締中 | 粘有 |
| 14 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む | 締中 | 粘有 |
| 15 | 10YR | 3/1 | 黒褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む | 締中 | 粘有 |
| 16 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロ粒含む、焼土・炭粒含む | 締中 | 粘有 |
| 17 | 10YR | 3/1 | 黒褐 | ロ粒含む | 締弱 | 粘有 |
| 18 | 10YR | 3/1 | 黒褐 | ロブ含む、ロ粒含む、焼土・炭粒含む | 締弱 | 粘有 |
| 19 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む | 締弱 | 粘有 |
| 20 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロ粒含む | 締中 | 粘有 |
| 21 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 22 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロ粒含む | 締弱 | 粘有 |
| 23 | 10YR | 4/1 | 褐灰 | 焼土・炭粒含む、ロ粒多く含む | 締弱 | 粘有 |
| 24 | 10YR | 4/1 | 褐灰 | 焼土・炭粒含む、ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 25 | 10YR | 4/4 | 褐 | ロブ多く含む、焼土・炭粒含む、ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 26 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 27 | 10YR | 4/4 | 褐 | ロ粒多く含む | 締強 | 粘有 |
| 28 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロ粒含む | 締弱 | 粘有 |
| 29 | 2.5YR | 3/4 | 暗赤褐 | ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む | 締中 | 粘有 |
| 30 | 7.5YR | 4/2 | 灰褐 | ロ粒含む、焼土・炭粒多く含む、白ブ多く含む | 締中 | 粘有 |
| 31 | 5YR | 3/1 | 黒褐 | ロ粒含む、焼土・炭粒含む、白ブ多く含む | 締中 | 粘有 |
| 32 | 5YR | 3/3 | 暗赤褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 33 | 10YR | 4/2 | 灰黄褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 34 | 10YR | 4/1 | 褐灰 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 35 | 10YR | 4/3 | にぶい黄褐 | ロブ多く含む、ロ粒多く含む | 締弱 | 粘有 |
| 36 | 10YR | 4/3 | にぶい黄褐 | ロブ多く含む、焼土・炭粒少量含む、ロ粒多く含む | 締非強 | 粘有 貼床 |

第12図 4トレンチ、SI03 遺構図・断面図

4トレンチ、SB01、Pit03～05・07～12・14



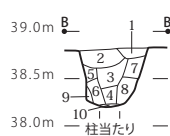
SB01-P2, Pit07



- | | | | | | | |
|----|------|-----|----|-----------------------|----|----|
| 1 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロブ含む、ロ粒含む、白ブ含む | 締中 | 粘有 |
| 2 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロブ含む、ロ粒含む、炭粒含む | 締弱 | 粘有 |
| 3 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロブ含む、ロ粒含む | 締弱 | 粘無 |
| 4 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む | 締中 | 粘有 |
| 5 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロブ多く含む、ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 6 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒少量含む、白ブ含む、白粒少量含む | 締中 | 粘有 |
| 7 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む | 締中 | 粘有 |
| 8 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む | 締中 | 粘有 |
| 9 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロブ多く含む、ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 10 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロブ多く含む、ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む | 締中 | 粘有 |
| 11 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロブ含む、焼土・炭粒含む、ロ粒含む | 締強 | 粘有 |
| 12 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロブ多く含む、焼土・炭粒含む、ロ粒含む | 締強 | 粘有 |

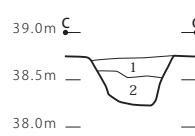
- | | | | | | | |
|----|------|-----|----|--------|----|----|
| 13 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒少量含む | 締中 | 粘有 |
| 14 | 10YR | 3/4 | 暗褐 | ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 15 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒含む | 締弱 | 粘無 |
| 16 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒含む | 締弱 | 粘無 |
| 17 | 10YR | 2/3 | 黒褐 | ロ粒含む | 締弱 | 粘無 |
| 18 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロ粒含む | 締中 | 粘有 |
| 19 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒含む | 締中 | 粘有 |
| 20 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 21 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |

SB01-P3



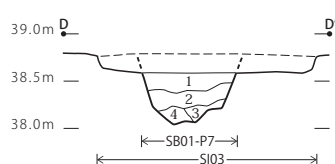
- | | | | | | | |
|----|------|-----|----|--------|----|----|
| 1 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒含む | 締中 | 粘有 |
| 2 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |
| 3 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒少量含む | 締中 | 粘有 |
| 4 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロ粒少量含む | 締弱 | 粘無 |
| 5 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | ロ粒多く含む | 締弱 | 粘無 |
| 6 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | ロブ多く含む | 締中 | 粘有 |
| 7 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | ロ粒含む | 締中 | 粘有 |
| 8 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | ロブ多く含む | 締中 | 粘有 |
| 9 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | ロ粒多く含む | 締弱 | 粘無 |
| 10 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロ粒少量含む | 締中 | 粘無 |

SB01-P5

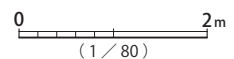


- | | | | | | | |
|---|------|-----|----|-------------|----|----|
| 1 | 10YR | 2/3 | 黒褐 | ロ粒少量含む、白粒含む | 締中 | 粘有 |
| 2 | 10YR | 3/2 | 黒褐 | ロ粒多く含む | 締中 | 粘有 |

SB01-P7

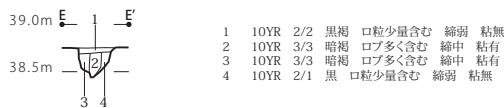


- | | | | | | | |
|---|------|-----|----|------------------------|----|----|
| 1 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロブ含む、ロ粒含む、白ブ含む、焼土・炭粒含む | 締中 | 粘有 |
| 2 | 10YR | 2/2 | 黒褐 | ロブ含む、焼土・炭粒含む、ロ粒含む | 締中 | 粘有 |
| 3 | 10YR | 2/1 | 黒 | ロブ含む、ロ粒含む | 締中 | 粘無 |
| 4 | 10YR | 3/3 | 暗褐 | ロ粒多く含む、焼土・炭粒含む、白粒含む | 締強 | 粘有 |

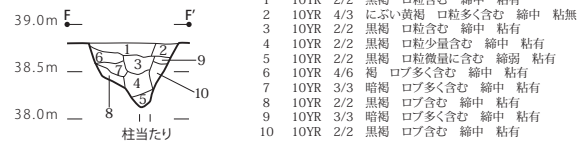


第13図 4トレンチ、SB01、Pit03～05・07～12・14 遺構図・断面図(1)

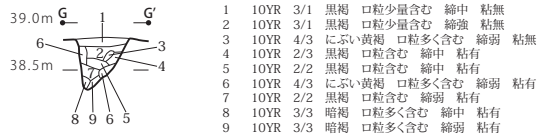
Pit03



Pit04



Pit05



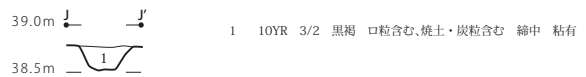
Pit08



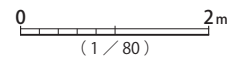
Pit09



Pit10



Pit11



第14図 4トレンチ、Pit03～05・08～11 断面図(2)

生土器壺2点(6.6g)、土師器杯22点(68.1g)、ロクロ土師器杯2点(16.2g)、土師器杯身1点(2.0g)、不明土師器30点(66.4g)、須恵器杯1点(7.5g)、須恵器甕1点(17.4g)、石3点(16.8g)がある。

小結 4トレンチで確認された遺構の時期について見ると、SI02は8世紀後半に位置づけられる新治産の須恵器杯が認められるのに対し、SI03は古墳時代後期の土師器杯が柱穴より出土している。加えてSB01-P7がSI03の床面を掘り抜いていること、またSB01-P7から7世紀末～8世紀に属すると考えられる東海産の須恵器が出土していることからSB01はSI03より新しいことは確実である。よって、SI03→SB01→SI02の順で建築されたと推察される。またSB01に建て替えの痕跡が認められなかったこと、SB01とSI02の時期差を考慮すると後者が建てられた時点には前者は既に廃絶していた可能性が高い。不明ピットのうち、SI02-P1と重なるPit06は、覆土から6～7世紀と考えられる土師器杯が出土している。その他のピットについてはPit13を除いて時期推定や他遺構との前後関係の把握は困難である。

4 まとめ

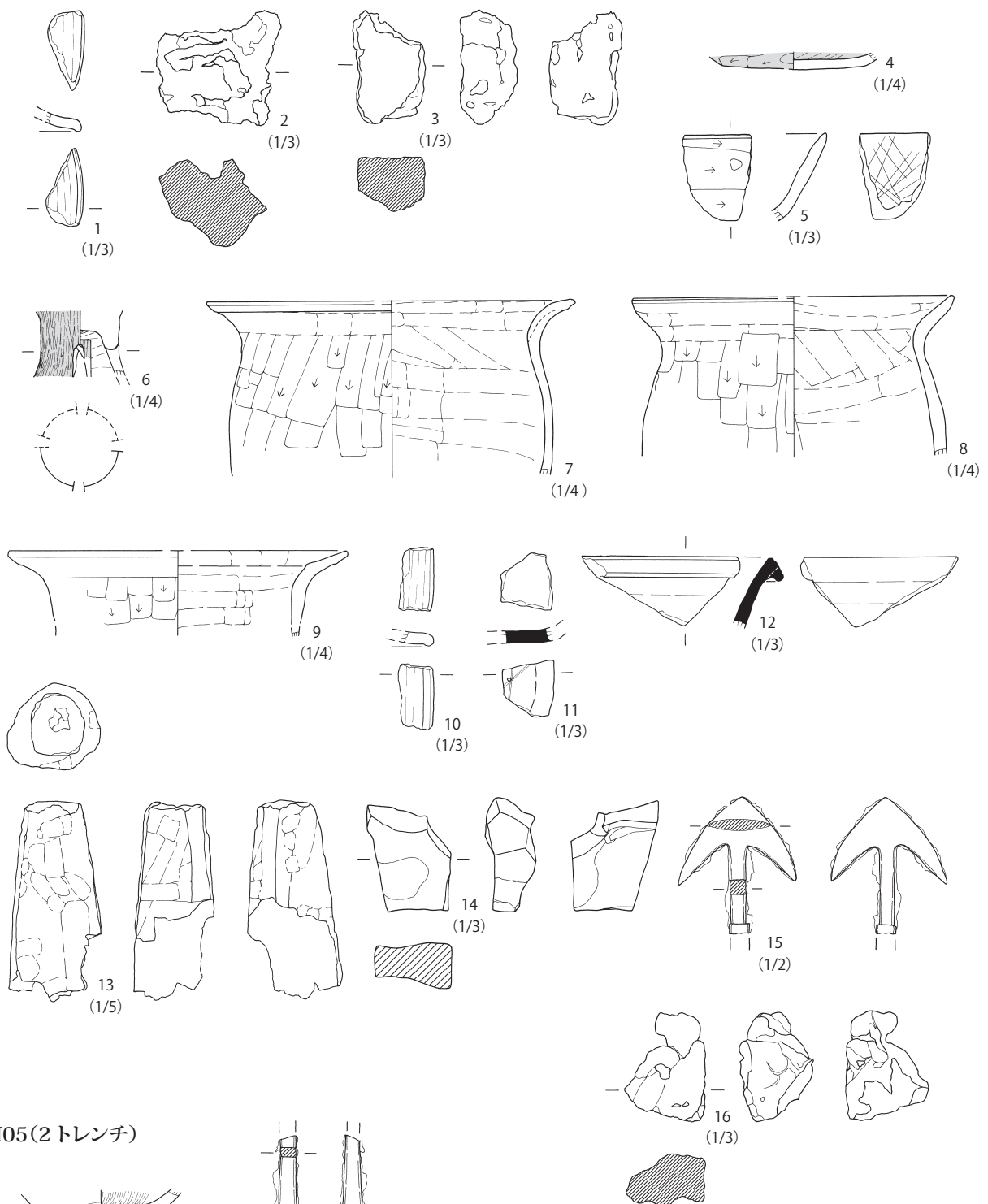
調査の結果、竪穴建物跡5棟、掘立柱建物跡1棟、溝1条、土坑3基、ピット14基が検出された。出土遺物から鑑みるに、これら遺構は古墳時代終末期から奈良時代に属すると考えられ、大きな断絶期間を伴わず、周辺にかけて人々の営みが続いたものと推測される。

今回調査区の特徴には、鍛冶工房との関連性を感じさせる遺物の多いことが挙げられる。特にSI01・SI02・SI03から鉄滓や鍛造剥片・羽口などが出土している。しかし、これらの遺物は各遺構に点在しており、特定地点に集中する様相は確認できない。おそらく鉄器生産の拠点というよりも古墳時代中期以降に増加する集落単位の小鍛冶に近い様相を呈していたと考えられる。

今回の調査により椎津周辺の台地上に立地する集落遺跡の資料を加えることができた。島原遺跡

SD01(1 トレンチ)

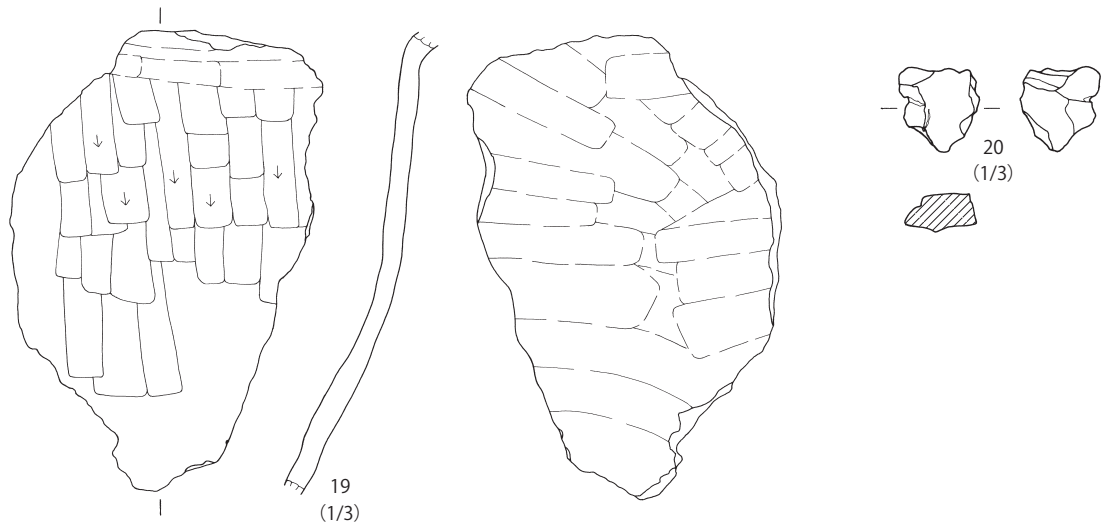
SI01(2 トレンチ)



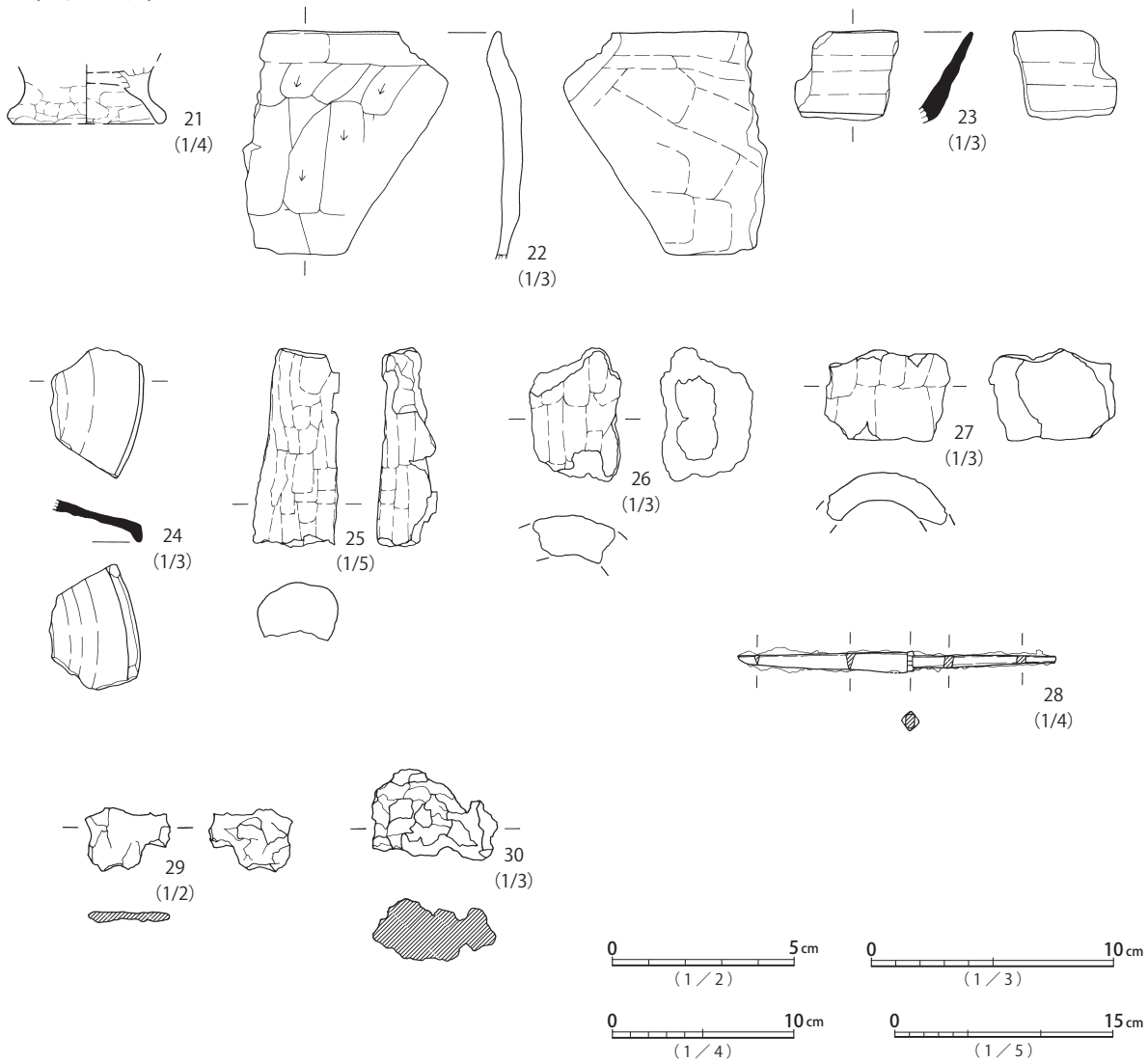
SI05(2 トレンチ)

第15図 SI01・05、SD01 遺物実測図

SK03(2 トレンチ)

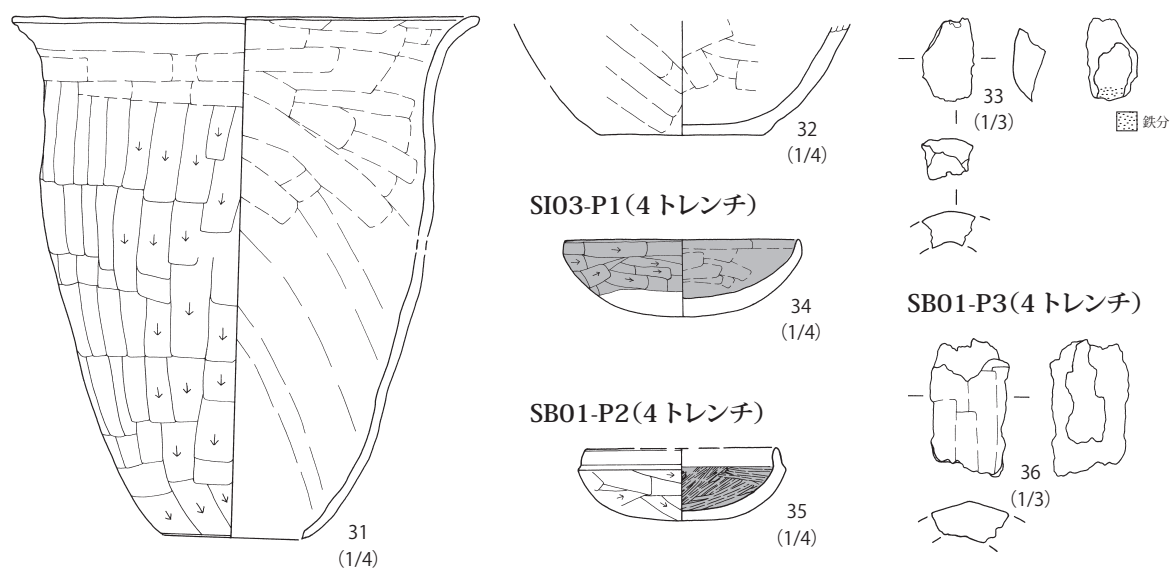


SI02(4 トレンチ)



第16図 SI02、SK03 遺物実測図

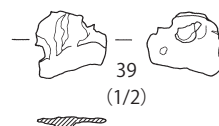
SI03(4 トレンチ)



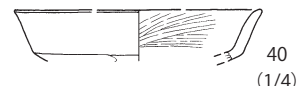
SB01-P7(4 トレンチ)



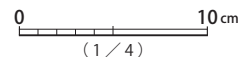
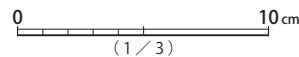
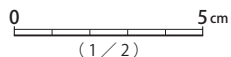
Pit05(4 トレンチ)



Pit06(4 トレンチ)



4 トレンチ



第17図 SI03、SB01、Pit05・06、4トレンチ 遺物実測図

の北西・北東部台地上には古墳時代後期の集落跡が検出された椎津向原遺跡、五霊台遺跡、茶ノ木遺跡が位置している。本調査区の遺構群は古墳時代後期から奈良時代の集落の拡がり都市計画道路八幡椎津線の南側にも及んでいたことを示すものである。

引用参考文献

- 木對和紀 1992『市原市椎津茶ノ木遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第49集 千葉ホーム株式会社・財団法人市原市文化財センター
- 木對和紀 2012「島原遺跡」『平成23年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第22集 市原市教育委員会
- 櫻井敦史 1997「椎津尾崎遺跡」『市原市文化財センター年報(平成6年度)』財団法人市原市文化財センター
- 鈴木宏和 2023「島原遺跡(第2次)」『令和4年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第60集 市原市教育委員会
- 高橋康男 1998『市原市五霊台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第64集 細田哲平・東日本建設株式会社・財団法人市原市文化財センター
- 高橋康男 2012「椎津尾崎遺跡 第2地点」『平成23年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第22集 市原市教育委員会
- 牧野光隆 2009「椎津向原遺跡」『平成20年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第11集 市原市教育委員会

第1表 土器観察表

凡例：寸法の()は現存値、?は推定値を示す。

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周速存	寸法 cm			重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面	
15	9	1	1	SD01	セ 603 SD001 1 一拵	土師器	蓋	口縁部の一部	破片	－	－	－	4.2	普通	白色細粒・雲母微量含む	7.5YR 6/4 にぶい 褐	表面をヘラナデ調整	表面をヘラナデ調整	須恵器(蓋)の模倣品	
15	9	4	2	SI01	セ 603 SI001 9	土師器	盤状杯	底部の一部	1/4	－	(1.1)	9.0?	－	普通	白色細粒・雲母含む	2.5YR 5/6 明赤褐	底部をケズリ整形後、赤彩	表面をヘラナデ調整		
15	9	5	2	SI01	セ 603 SI001 55 一拵	土師器	杯	胴部の一部	破片	－	(4.2)	－	－	普通	白色細粒・海綿骨針少量含む	5YR 5/6 明赤褐	表面を横方向にヘラナデ調整、格子状の上総型暗文あり	表面を横方向にヘラナデ調整	8世紀中葉～後葉	
15	9	6	2	SI01	セ 603 SI001 32	土師器	高坏	脚部の一部	1/4	－	(4.3)	－	－	良好	赤色の微細粒(シャモット状)を少量含む	7.5YR 6/6 橙	表面を縦方向にヘラミガキ調整後、赤彩	表面をヘラナデ調整	須恵器の模倣品 7世紀前半	
15	9	7	2	SI01	セ 603 SI001 22 一拵・3一拵	土師器	甕	口縁部・頸部・胴部の一部	1/5	24.0?	(11.3)	－	24.1?	普通	海綿骨針微量、雲母多く含む	10YR 5/4 にぶい 黄褐	頸部付近は横方向のヘラナデ調整、胴部は縦方向にヘラナデ調整	表面を横方向にヘラナデ調整	輪積み痕あり	
15	9	8	2	SI01	セ 603 SI001 3 一拵×3・12一拵×3・45カマド一拵×1	土師器	甕	口縁部・頸部・胴部の一部	1/4	20.7?	(10.4)	－	－	普通	海綿骨針微量、小石・雲母少量含む	7.5YR 5/6 明褐	頸部付近は横方向のヘラナデ調整、胴部は縦方向にヘラナデ調整	表面を横方向にヘラナデ調整		
15	9	9	2	SI01	セ 603 SI001 52 一拵×6・54一拵×1	土師器	甕	口縁部・頸部の一部	1/3	22.0?	(5.5)	－	－	普通	黒色細粒・雲母少量含む	7.5YR 7/4 にぶい 橙	頸部付近は横方向のヘラナデ調整、胴部は縦方向にヘラナデ調整	表面を横方向にヘラナデ調整		
15	9	10	2	SI01	セ 603 SI001 2 一拵	土師器	蓋	口縁部の一部	破片	－	－	－	－	普通	白色細粒微量含む	2.5YR 5/6 明赤褐	表面をヘラナデ調整	表面をヘラナデ調整	須恵器(蓋)の模倣品	
15	9	11	2	SI01	セ 603 SI001 26	須恵器	杯	底部の一部	破片	－	－	－	5.5	普通	小石微量含む	5Y 8/1 灰白	口クロによるナデ調整、底部に土状のヘラ記号(焼成前)	表面をケズリ調整	永田・不入皿?	
15	9	12	2	SI01	セ 603 SI001 31	須恵器	広口壺	口縁部の一部	破片	－	(3.4)	－	－	良好	赤色細粒微量含む	7.5YR 6/1 褐灰	口縁部に粘土帯の貼り付け痕跡、口クロによるナデ調整	口クロによるナデ調整	東海産	
15	9	17	2	SI05	セ 603 SK001 1 一拵	土師器	杯	底部の一部	破片	－	(2.2)	5.0?	－	普通	海綿骨針微量含む	7.5YR 7/6 橙	底部付近をケズリ調整	表面をヘラミガキ調整	8世紀初頭	
16	10	19	2	SK03	セ 603 SK007 1 一拵	土師器	甕	胴部・頸部の一部	破片	－	(18.4)	－	－	普通	海綿骨針微量、雲母・小石多く混じる	10YR 5/2 灰黄褐	頸部付近は横方向のヘラナデ調整、胴部は縦方向にヘラナデ調整	表面を横方向にヘラナデ調整	鬼高式	
16	10	21	4	SI02	セ 603 SI002 7 ×2	土師器	台付甕	脚部	破片	－	(3.2)	8.0?	(8.7)	普通	赤色細粒微量含む	2.5YR 4/3 にぶい 赤褐	表面を指ナデ整形	表面を指ナデ整形	襲胴部の内面が一 部の残存	
16	10	22	4	SI02	セ 603 SI002 10・1一拵	土師器	甕	口縁部・頸部・胴部の一部	破片	－	(9.3)	－	－	良好	海綿骨針微量含む	2.5YR 4/6 赤褐	頸部付近は横方向のヘラナデ調整、胴部は縦方向にヘラナデ調整	表面を横方向にヘラナデ調整		
16	10	23	4	SI02	セ 603 SI002 35 一拵	須恵器	杯	口縁部・胴部の一部	破片	－	(3.6)	－	－	良好	雲母多く含む	7.5YR 6/3 にぶい 褐	口クロによるナデ調整	口クロによるナデ調整	新治産、8世紀後半	
16	10	24	4	SI02	セ 603 SI002 18	須恵器	蓋	口縁部・胴部の一部	破片	－	(1.7)	－	－	良好	白色細粒微量含む	2.5YR 6/1 灰白	口クロによるナデ調整	口クロによるナデ調整		
17	6・8	31	4	SI03	セ 603 SI003 12 ×26	土師器	甕	ほぼ完形	ほぼ完形	24.4	27.6	7.3	24.5	普通	小石・雲母多く含む	10YR 6/4 にぶい 黄褐	口縁部・頸部付近は横方向にヘラナデ、胴部から底部にかけて縦方向にヘラナデ調整	表面を主に横方向にヘラナデ調整	胴部にスス付着	
17	8	32	4	SI03	セ 603 SI003 P1 3・13一拵・1一拵・7・P11一拵・P14一拵・SK006 1一拵	土師器	甕	胴部の一部	3/5	－	(5.9)	8.6	－	普通	小石少量含む	5YR 5/4 にぶい 赤褐	底部付近をヘラナデ調整、底部外面に被熱痕あり	底部付近をヘラナデ調整		

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm			重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考	
									口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面		内面
17	6・8	34	4	SI03 P1 1	土師器	杯	完形	完形	12.4	4.1	—	12.7	211.5	普通	海綿骨針・白雲母 微量含む	7.5YR 5/1 褐灰～ 5YR 6/6 橙	7.5YR 3/1 黒褐	表面と横方向に手持 ちヘラケズリ、黒色 処理、底部外面に被 ナデ、黒色処理	表面と横方向にヘラ 処理、黒色処理	鬼高式（5～6c）
17	10	35	4	SB01 P2 1	土師器	杯身	口縁部・胴部 の一部	1/4	10.0?	(3.8)	—	11.0?	332	良好	海綿骨針・赤色細 粒（シャモット 状）微量含む	10YR 6/6 明黄褐	10YR 4/6 褐	胴部表面をケズリ調 整	表面をミガキ調整、 黒色処理	鬼高式（6c 末）
17	10	37	4	SB01 P7 1	土師器	杯	底部の一部	破片	—	(2.5)	4.0?	—	262	普通	黒色細粒・雲母少 量含む	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/7 橙	底部付近をケズリ調 整	表面をヘラミガキ調 整	
17	10	38	4	SB01 P7 1	須恵器	杯身	口縁部・胴部	1/3	8.6?	(1.8)	—	10.4?	159	良好	赤褐色の砂粒少量 混じる	7.5Y 5/2 灰オリー ブ	7.5Y 6/2 灰オリー ブ	ロクロによるナデ調 整	ロクロによるナデ調 整	7世紀末～8世紀 初頭 東海産
17	10	40	4	PH06 1	土師器	杯	口縁部の一部	破片	12.6?	(2.7)	—	13.2?	9.0	普通	雲母多く含む	7.5YR 6/4 にぶい 橙	7.5YR 7/6 橙	底部手持ちヘラケズ リ、布ナデ	ミガキ調整	6世紀末～7世紀 初頭
17	10	41	4	— 1	土師器	高杯	胴部・頸部の 一部	全周	—	(3.2)	—	—	91.4	普通	赤色細粒（シャ モット状）微量混 じる	7.5YR 5/2 灰褐	7.5YR 5/3 にぶい 褐	括れ部表面は縦方向 にナデ調整	杯部内面はミガキ調 整	

第 2 表 土製品観察表

凡例：寸法の（ ）は現存値、？は推定復元値を示す。

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	寸法 cm			重量 g	胎土	色調		焼成	備考
								長さ	幅	厚さ			外面	内面		
15	4・9	13	2	SI01	セ 603 SI001 51・セ 603 SI001 52 一括×3	土製品	支脚	(16.2)	(7.3)	(6.4)	586	海綿骨針微量・白色細粒少量含む	5YR 6/6 橙	—	普通	外面指ナデ整形
16	10	25	4	SI02	セ 603 SI002 12・36 一括	土製品	支脚	(13.6)	(5.4)	(3.7)	231.2	白色の砂粒少量混じる	10YR 6/3 にぶい黄橙	—	普通	外面指ナデ整形
16	10	26	4	SI02	セ 603 SI002 2 一括	土製品	羽口	(5.5)	(3.8)	1.6	37.3	海綿骨針・雲母微量含む	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/6 明赤褐	普通	外面指ナデ整形 外面一部発泡
16	10	27	4	SI02	セ 603 SI002 23	土製品	羽口	(3.6)	(5.1)	1.1	26.3	小石・砂粒少量混じる	5YR 5/1 褐灰	5YR 6/8 橙	普通	外面発泡、送風口付近か
17	10	33	4	SI03	セ 603 SI003 1 一括	土製品	羽口	(3.3)	(2.0)	(1.2)	6.9	白色の砂粒少量混じる	7.5YR 4/3 褐	7.5YR 4/1 褐灰	普通	送風口に鉄分（熔着滓）付着
17	10	36	4	SP01 P3	セ 603 PO10 1 一括	土製品	羽口	(5.4)	(3.1)	1.4	22.6	小石・砂粒多く混じる	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/6 明赤褐	普通	外面ナデ整形

第 3 表 石製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	寸法 cm			重量 g	色調		備考
								長さ(径)	幅(孔)	厚さ(高さ)		外面	内面	
15	9	14	2	SI01	セ 603 SI001 30	石製品	金床石	5.3	4.1	2.0	90.1	2.5Y 4/3 オリーブ褐	破片	広面に敲打痕
16	10	20	2	SK03	セ 603 SK007 2 一括	石製品	金床石?	3.3	3.1	1.5	26.2	10YR 4/2 灰黄褐	破片	裏面に敲打痕

第 4 表 鉄製品観察表

凡例：寸法の（ ）は現存値、？は推定復元値を示す。

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナ 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm			重量 g	備考	
							長さ(長径)	幅(短径)	厚さ		外面	内面
15	9	2	1	SD01	セ 603 SD001 2	鉄滓	5.6	6.1	3.4	132.5		
15	9	3	1	SD01	セ 603 SD001 8	鉄塊	5.5	3.5	2.6	83.7		
15	9	15	2	SI01	セ 603 SI001 16	鉄鏡	(4.5)	3.8	0.44	8.8	刃部～基部残存、8世紀前半	
15	9	16	2	SI01	セ 603 SI001 5	流動滓	5.3	3.9	2.5	71.4		
15	9	18	2	SI05	セ 603 SK001 2	鉄鏡	(4.9)	0.7	0.43	3.6	頸部～基部残存、口巻あり	
16	5・10	28	4	SI02	セ 603 SI002 34	刀子	17.4	1.2	0.46	14.0	完形、銅残存	
16	10	29	4	SI02	セ 603 SI002 4 一括	鍛造剥片	1.8	2.3	0.15	2.0		
16	10	30	4	SI02	セ 603 SI002 11	鉄滓	3.7	5.0	2.5	37.4		
17	10	39	4	PH05	セ 603 PH005 1 一括	鍛造剥片	1.8	1.8	0.13	1.2		

写真図版

島原遺跡(第2次)

島原遺跡周辺航空写真(昭和36年撮影)



発掘前状況 (南東から)



1トレンチ 遺構検出状況 (南西から)



1トレンチ 掘削状況 (南東から)



SD01 遺構検出状況 (北西から)



SD01 完掘状況 (北西から)



SK01 完掘状況 (南西から)



SK02 完掘状況 (北東から)



Pit01 完掘状況 (南西から)



Pit02 完掘状況 (東から)



1 トレンチ 完掘状況 (南西から)



2 トレンチ 遺構検出状況 (南から)



SI01 土層断面 (南西から)



SI01 カマド半裁 (南から)



SI01 カマド掘方 P3 (南から)



SI01 カマド掘方 P4 (南から)



SI01 カマド完掘 (南から)



SI01 支脚(13) 出土状況(南から)



SI01 完掘状況(北西から)



SI05 完掘状況(北西から)



SK03 完掘状況(北東から)



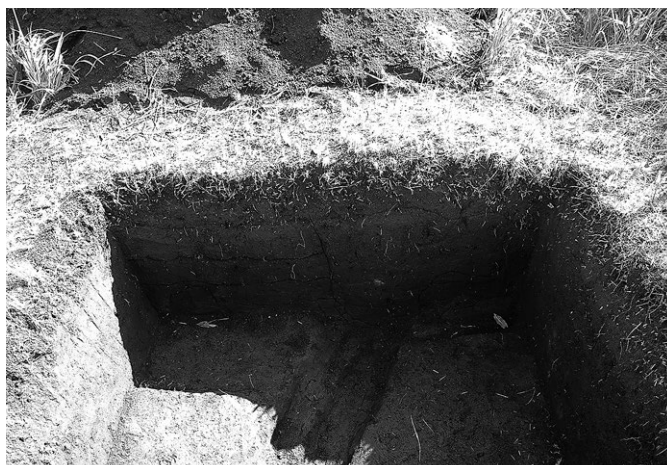
2トレンチ 基本層序(南西から)



3トレンチ 遺構検出状況(南西から)



SI04 完掘状況(南西から)



SI04 断面図(南東から)



4 トレンチ 遺構検出状況 (東から)



4 トレンチ 掘削状況 (北から)



SI02 カマド袖検出状況 (南から)



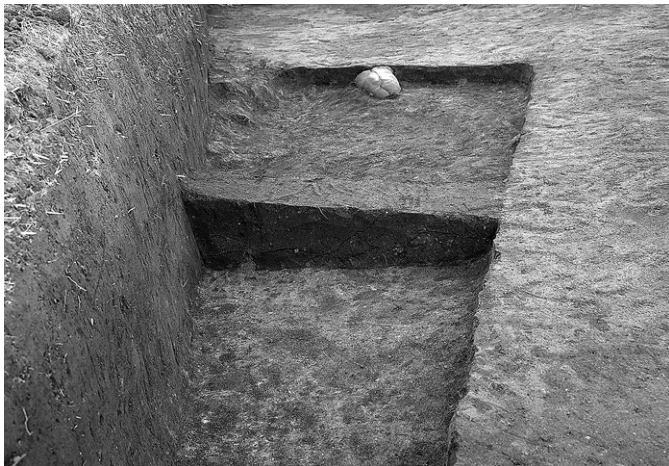
SI02 刀子 (28) 出土状況 (南東から)



SI02-P1 完掘状況 (南東から)



SI02 カマド掘方 (南東から)



SI03 土層断面 (南東から)



SI03 カマド袖検出状況 (南東から)



SI03 甕 (31) 出土状況 (南東から)



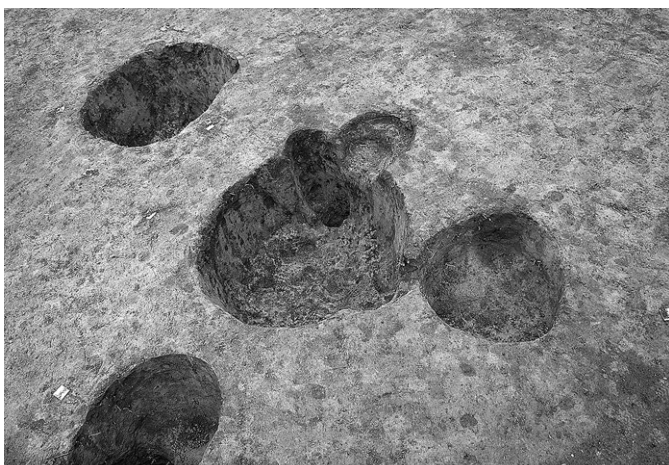
SI03-P1 半裁状況 (北東から)



SI03-P1 杯 (34) 出土状況 (南東から)



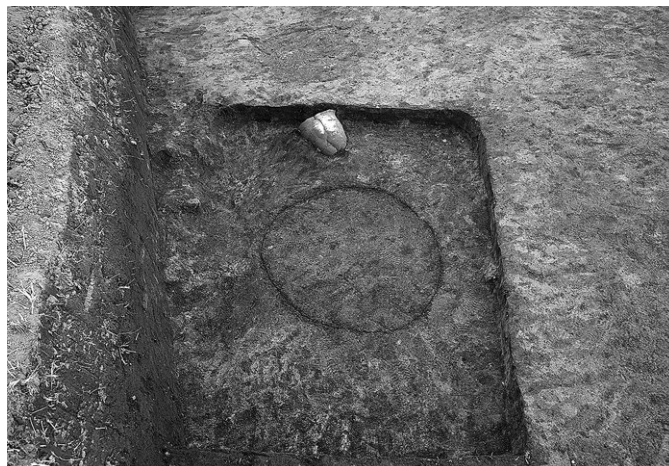
SI03 完掘状況 (北西から)



SB01-P2-Pit07-Pit14 完掘状況 (北から)



SB01-P3 完掘状況 (南西から)



SB01-P7 検出状況 (南東から)



SB01-P7 完掘状況 (東から)



SB01 完掘状況 (南東から)



Pit04 完掘状況 (北東から)



Pit05・Pit12 完掘状況 (南から)



Pit10 完掘状況 (北から)



4トレンチ 南西壁断面図 (北東から)



4 トレンチ 完掘状況 (東から)



31 (SI03)

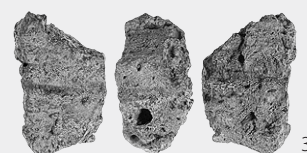
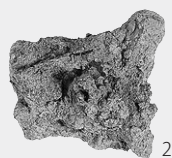


32 (SI03)

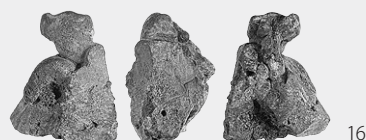
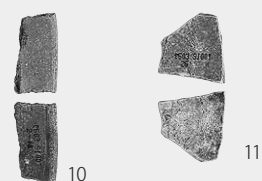
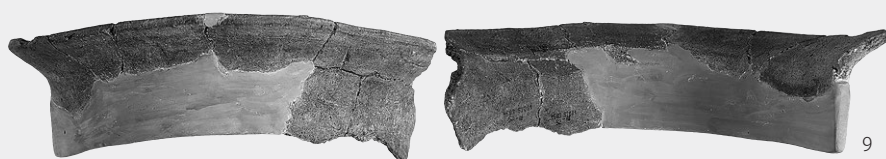
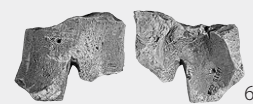
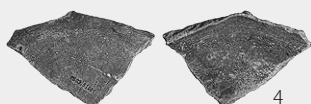


34 (SI03-P1)

SD01 (1トレンチ)



SI01 (2トレンチ)



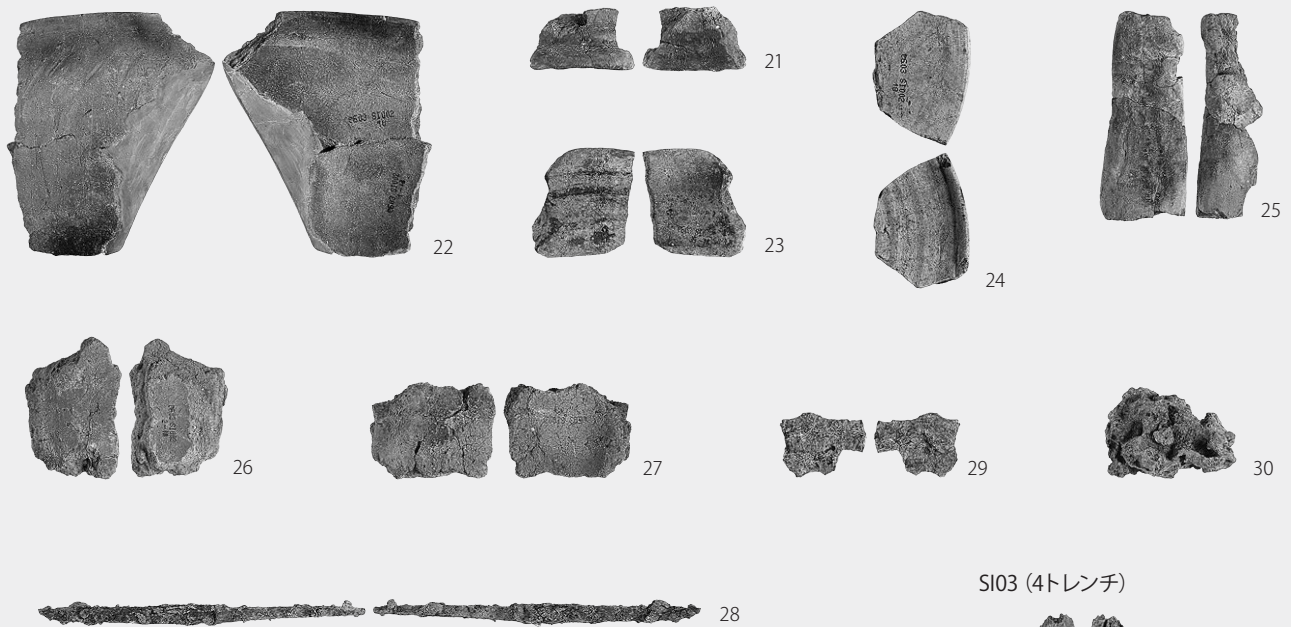
SI05 (2トレンチ)



SK03 (2トレンチ)



SI02 (4トレンチ)



SI03 (4トレンチ)



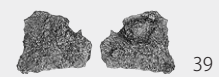
SB01-P2 (4トレンチ)



SB01-P3 (4トレンチ)



Pit05 (4トレンチ)



SB01-P7 (4トレンチ)



Pit06 (4トレンチ)



4トレンチ



報 告 書 抄 録

ふりがな	いちはらししまばらいせき(だいにじ)								
書 名	市原市島原遺跡(第2次)								
副書名									
巻 次									
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書								
シリーズ番号	第 61 集								
編著者名	川上知哉								
編集機関	市原市教育委員会(市原市埋蔵文化財調査センター)								
所在地	〒 290-0011 千葉県市原市能満 1489 番地 TEL 0436(41)9000								
発行年月日	2024 年(令和 6 年)2 月 9 日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード		世界測地系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
			市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しまばらいせき(だいにじ) 島原遺跡(第2次)	ちばけんいちはらししいづあざしまばら 千葉県市原市椎津字島原 1326 番地 1		12219	304	35° 28′ 05″	140° 01′ 53″	20221102 ～ 20221129	194.48	事務所建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
島原遺跡(第2次)	包蔵地	縄文時代 古墳時代 奈良時代 平安時代	古墳時代竪穴建物跡 2 棟、古墳時代掘立柱建物跡 1 棟、古墳時代溝状遺構 1 条、奈良時代竪穴建物跡 3 棟、不明土坑 3 基、不明ピット 14 基		古墳時代土師器・須恵器・土製品(羽口・支脚)・鉄滓、奈良時代土師器・須恵器・土製品(羽口・支脚)・鉄器(鉄鎌・刀子)・鉄滓・鍛造剥片・石製品(金床石)		古墳時代後期～奈良時代竪穴建物跡 5 棟が発見された。また羽口や鉄滓、鍛造剥片などが発見された。		
要 約	島原遺跡(第2次)は椎津の海岸線より南東に約 0.8km 入った洪積台地に位置する。調査の結果、古墳時代後期から奈良時代に属すると考えられる竪穴建物跡 5 棟が発見され、その内 4 棟の覆土から鉄器や羽口、鉄滓、鍛造剥片が出土した。疎らに出土したことから鉄器生産の拠点というよりも古墳時代中期以降に増加する集落単位の小鍛冶といった様相が推定される。この遺跡の北西部、北東部の台地上には古墳時代後期に属すると考えられる集落遺跡が確認されていることから、この時期以降に集落が都市計画道路八幡椎津線の南方にも展開していたことを窺い知ることができる。								

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第61集

市原市島原遺跡(第2次)

令和6年2月9日 発行

編 集 市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436(41)9000

発 行 エコサイト株式会社
市原市教育委員会
千葉県市原市国分寺台中央1-1-1
TEL 0436(22)1111

印 刷 株式会社 弘 文 社
千葉県市川市市川南2-7-2
TEL 047(324)5977

